

大会期間中の市の取組

東京2020大会関連事業として、聖火リレーの公道走行、調布駅前広場でのパブリックビューイングや競技体験など、多くの事業を計画してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や計画変更を余儀なくされました。代替として、オンラインを活用した取組を実施し、大会の盛り上げを図りました。

コミュニティライブサイト

市は、東京2020大会開催期間中において、市民が大会の感動と興奮を共有するとともに、国内外からの多くの来訪者に調布の魅力や文化を発信するため、パブリックビューイングや競技体験などを中心とした市主催のコミュニティライブサイトを調布駅前広場などで開催することを計画してきました。

当初計画

コミュニティライブサイトは、東京2020オリンピック期間中、12日間にわたり、グリーンホール等での開催を検討していました。イベントでは、感染症対策を徹底しながら、パブリックビューイングを中心に、競技体験、展示などを実施する予定でした。また、パラリンピック期間中は、東京都主催のライブサイトと連携し、競技体験や展示の実施を計画していました。

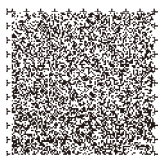
中止と計画の変更

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、集客を図るイベントの開催については市民の間に感染のまん延に対する強い不安感が広がっていました。加えて、調布駅前広場には新型コロナワクチン接種のための集団接種会場が設営されたことにより、イベントの実施が会場運営に支障をきたすことを危惧する意見も見受けられる状況でした。

そのような状況を総合的に勘案した結果、2021年6月にコミュニティライブサイトの中止を決定し、代替としてオンラインイベントを開催しました。

オンライントークイベント

コミュニティライブサイトの代替の取組として、5つのテーマ(サッカー、バドミントン、ホストタウン、ラグビー、パラリンピック)による動画コンテンツを、オンライン(YouTubeチャンネル「調布市動画ライブラリー」)で配信しました。これらの取組は、地域のプロスポーツチームや地域ゆかりのアーティスト、ホストタウン関係団体など、多様な主体と連携して行いました。動画は、東京2020公認プログラムとして東京2020大会の盛り上げにとどまらず、独自企画として地域のプロスポーツチーム等の紹介やホストタウン交流、共生社会の充実に向けた取組など、幅広い視点で制作しました。



1. サッカー【LIVE 配信】

日程

2021年7月22日(木・祝) 午後6時配信開始
※当日は、男子サッカー予選 日本 対 南アフリカが東京スタジアムにて開催

テーマと主な内容

第一部【調布市 × FC東京コラボ企画トークイベント】

- FC東京の今シーズン前半戦の振り返り、後半戦に向けた抱負
- 調布市との連携事業について

第二部(東京2020公認プログラム)【日本 VS 南アフリカ キックオフ直前トークイベント】

- 出演者のオリンピック出場経験談、日本代表戦の見どころや注目選手

主な出演・協力

- 石川 直宏(オリンピック/FC東京クラブコミュニケーター)
- 梶山 陽平(オリンピック/FC東京普及部コーチ)
- 永井 謙佑(FC東京選手)
- 橘 ゆりか(MC)

その他

当日のフィナーレとして、多摩川河川敷において、約400発のサッカー日本代表応援花火打上
※フィナーレの花火については、一般非公開



2. バドミントン【事前収録】

日程

2021年7月24日(土) 午前9時配信開始

テーマと主な内容

第一部

【NTT 東日本バドミントン部を知ろう! 調布市 × NTT 東日本バドミントン部コラボ企画】

- NTT 東日本バドミントン部について
- 桃田賢斗選手への応援企画

第二部(東京2020公認プログラム)

【東京2020大会 バドミントンイベント】



- バドミントンの魅力
- 出演者のオリンピック出場経験談
- 東京2020大会の見どころ、桃田賢斗選手について

主な出演・協力



- 川前 直樹(オリンピック/現NTT東日本バドミントン部コーチ)
- 佐藤 翔治(同上)
- 西川 裕次郎、古賀 穂、緒方 友哉、小本 大佑、尾崎 沙織、大家 夏稀(NTT 東日本バドミントン部現役選手)

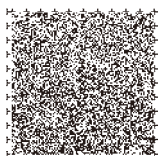


3. ホストタウン（サウジアラビア応援 DAY）【LIVE（一部事前収録）】

日程	2021年7月25日（日）午後3時30分配信開始	 
テーマと主な内容	<ul style="list-style-type: none">● 6月30日キックオフミーティング ダイジェスト映像● ホストタウン自治体とこれまでの交流の紹介● サウジアラビアの方による「サウジアラビアをもっと知ろう」企画● サウジアラビア王国国歌斉唱	
主な出演・協力	<ul style="list-style-type: none">● 岩手県大槌町、愛媛県新居浜市（両市町ともサウジアラビアのホストタウン）● サウジアラビア大使館文化部● 調布市サウディアラビア友好会● 調布市国際交流協会 ほか	
その他	<ul style="list-style-type: none">● 本事業は、内閣官房オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局によるオリパラ基本方針推進調査事業（新型コロナウイルス流行下におけるホストタウンの交流や情報発信の在り方等）として実施● 本事業の一環として、調布市、大槌町、新居浜市の3市町が連携して、サウジアラビア応援リレーメッセージ動画を作成し、YouTubeの内閣官房の公式チャンネル「Light up HOST TOWN Project」で配信	

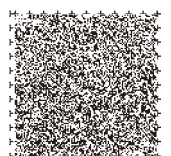
4. ラグビー 【LIVE（一部事前収録）】

日程	第一弾 事前収録映像：2021年7月25日（日）午前9時配信開始 第二弾 LIVE：2021年7月28日（水）正午配信開始 ※当日は、7人制ラグビーの決勝、準決勝を含む順位決定戦が東京スタジアムにて開催	 
テーマと主な内容	第一弾【「大野均・真壁伸弥」スペシャルトークイベント】 <ul style="list-style-type: none">● 調布とラグビーについて 第二弾 第一部【調布市×東芝ブレイブルーパス×サントリーサンゴリアス コラボ企画】 <ul style="list-style-type: none">● 東芝ブレイブルーパスとサントリーサンゴリアスについて 第二部（東京2020公認プログラム）【男子7人制ラグビー決勝直前トークイベント】 <ul style="list-style-type: none">● 7人制ラグビー（セブズ）の魅力、試合の見どころなど	
主な出演・協力	<ul style="list-style-type: none">● 大野 均（ラグビー元日本代表）● 真壁 伸弥（ラグビー元日本代表）● 金子 巧（調布市ラグビーフットボール協会）● 濱田 将暉（U25セブズ元日本代表、東芝ブレイブルーパス現役選手）● 桑山 聖生（U25セブズ元日本代表、セブズ元日本代表、東芝ブレイブルーパス現役選手）● 江見 翔太（セブズ元日本代表、サントリーサンゴリアス現役選手）● 中霧 隆彰（セブズ元日本代表、サントリーサンゴリアス現役選手）● 藤島 大（MC）（スポーツライター、ラグビー解説者）	



5. パラリンピック【事前収録】

<p>日程</p>	<p>2021年8月21日(土) 午前9時配信開始</p>	
<p>テーマと主な内容</p>	<p>第一部(東京2020公認プログラム)【車いすバスケットボールを知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「稲村亜美さんが車いすバスケットボールに挑戦!」企画 ●パラリンピアンと稲村亜美さんによるトークショー ●パラリンピックへ出場する調布市応援アスリートへの応援メッセージ企画 	
<p>主な出演・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●上村 知佳 (パラリンピアン/車いすバスケットボール現役選手) ●稲村 亜美 (タレント) ●矢野 正泰 (MC) ●三宅 克己 (パラリンピアン) ※メッセージ出演 	
<p>テーマと主な内容</p>	<p>第二部【「アート」の力で共生社会の実現へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サンドアート制作のドキュメンタリー (8月11日にトリエ京王調布の協力により、C館北側のつつみち上で、サンドアーティスト保坂俊彦氏によるサンドアート制作を実施。サンドアートへの想いや、共生社会実現に向けたアートの可能性についてのインタビューを、サンドアートの制作過程とともに収録) ※制作したサンドアートは、9月末まで展示 ●調布よさこい (過去の映像や、コロナ禍での練習風景、実行委員長へのインタビューを通して、共生社会の実現に向けた調布よさこいの可能性や魅力について収録) 	 
<p>主な出演・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保坂 俊彦 (調布ゆかりの国際的に活躍するサンドアーティスト) ●平澤 和哉 (調布よさこい実行委員長) 	



調布市応援アスリート事業

調布市応援アスリートからは、桃田賢斗選手、相馬勇紀選手、山崎悠麻選手、有安諒平選手の4人が東京2020大会に出場しました。出場した選手へ向けて、応援のための様々な取組を実施しました。

1. 出場選手応援横断幕等の設置

主な設置場所

- 調布駅前広場広告塔、グリーンホール、市庁舎前、布田小学校（相馬勇紀選手出身校）
- 市内京王線9駅（仙川駅、つつじヶ丘駅、柴崎駅、国領駅、布田駅、調布駅中央口・東口、西調布駅、飛田給駅、京王多摩川駅 計10か所）



2. 出場選手への応援メッセージの募集

応募媒体

Twitter・ホームページ・市報・LINE でメッセージ募集
メッセージの件数:

山崎悠麻選手 132件、桃田賢斗選手 115件、有安諒平選手 101件、相馬勇紀選手 119件

※応援メッセージは集約後、各選手へそれぞれの東京2020大会出場日前に渡しました。



山崎悠麻選手への応援メッセージ



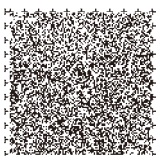
桃田賢斗選手への応援メッセージ



有安諒平選手への応援メッセージ



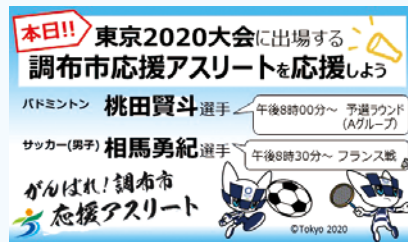
相馬勇紀選手への応援メッセージ



3. ホームページ、SNS、市報での取組

主な取組

- 東京2020大会の出場が内定した選手からのメッセージ動画の配信
- 応援アスリートの出場日情報の告知
- 応援アスリートの出場結果報告
- 出場選手からの応援御礼動画の配信



4. ホームページ、SNS、市報での取組

東京2020大会期間中に配信したオンライントークイベントに合わせ、市民の皆さまからの応援メッセージを配信しました。

●桃田選手への応援メッセージ



なないろ学童クラブ



はなばたけ学童クラブ



深大寺児童館
学童クラブ



染地児童館



調布市職員

●山崎選手への応援メッセージ



緑ヶ丘児童館



調布第六中学校
バドミントン部



調布市バドミントン連盟



調布市職員



●有安選手への応援メッセージ



緑ヶ丘児童館
子育てひろば



深大寺児童館
学童クラブ



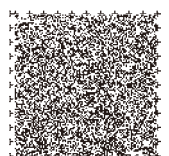
杏林大学大学院医学研究科
統合生理学教室



東急イーライフデザイン



調布市職員



アクション&
レガシープラン 取組

1

スポーツ・
健康づくり

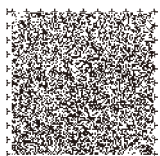
調布市体育協会等の関係団体や各競技団体、FC東京等と連携・協力しながら、障害の有無にかかわらずだれもがスポーツに親しめる機会の創出を図るとともに、障害者スポーツの振興に取り組みました。また、市民の運動機会の習慣化による健康増進に向けた環境づくりを推進しました。

主なアクション

- スポーツイベント等の実施
- ラグビーに関する取組の推進
- スポーツを通じたオリンピック・パラリンピックの機運醸成
- 障害者スポーツの推進
- 健康づくり

創出するレガシー

- 子ども、高齢者、障害者などのだれもがスポーツに親しみ、楽しめる環境や機会の確保
- パラリンピックを契機とした障害理解の促進
- 多摩地域における国際的なスポーツ拠点の形成
- スポーツ等を通じた主体的な参加意識の向上と健康増進



様々な主体と連携したスポーツに親しむ機会の創出

「調布市民体育祭・調布市民スポーツまつり・調布市民駅伝競走大会」

調布市体育協会と連携し、より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう実施している3大スポーツイベントです。市民体育祭は夏季・秋季・冬季と全29競技を開催し、スポーツを通じた市民相互の交流を図り、市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会は味の素スタジアムにて開催し、多くの市民がスポーツに親しむ機会の創出を図るなど、市民へのスポーツ振興に寄与しました。

「調布市小学生ドッジビー大会」

調布市スポーツ推進委員会と連携し、市内小学校代表チームによるドッジビー大会を開催しています。武蔵野の森総合スポーツプラザメインアリーナを会場とし、多くの小学生がドッジビーを通して交流を図りました。



小学生ドッジビー大会

「調布市ジュニア陸上体験教室」

調布市体育協会、調布市教育委員会と連携し、小学生・中学生の体力向上を目的として実施しました。講師にはオリンピックをはじめとするトップアスリートを招き、正しいフォームでの走り方等、より速く走るためのコツなどを学びました。



市民スポーツまつり



市民駅伝



ジュニア陸上体験教室

「FC東京と連携したまちづくり」

調布市は、基本計画の中で「FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進」を掲げ、味の素スタジアムをホームスタジアムとしているFC東京を1999年から応援し、スポーツの分野にとどまらず、青少年育成、福祉、地域活性化等様々な分野でFC東京と連携したまちづくりを行っています。

その中で「子どもサッカー体験教室」などサッカー競技の普及や「FC東京×ブランドサッカー® 講演会」、「あおぞらサッカースクール」など障害者スポーツの振興を図っているほか、東京2020大会に向けたオンライントークイベント等による大会の機運醸成を図りました。

また、ホームスタジアムでの試合観戦や小学校などへの訪問等の連携事業を通じて、市民が日常的にプロサッカーチームと接することにより、スポーツへの関心やスポーツに親しむきっかけが生まれ、市のスポーツ振興へとつながっています。さらには、FC東京のホームタウンということをしてシティセールスに役立て、市としてのイメージや知名度を高めることにつながっており、市民がFC東京のあるまち・調布に誇りを持ち、市への愛着を生むことができるなど、大きな効果を生んでいます。



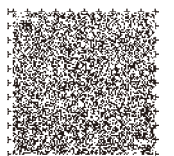
FC東京オンラインイベント



子どもサッカー体験教室



ユニフォームデー



「NTT東日本バドミントン部との連携」

市内に活動拠点がある NTT 東日本バドミントン部との共催で、市内在住・在学の小学生を対象に、シャトルキャッチやスマッシュターゲット等のアトラクションを通じて、選手による指導や交流を行う「NTT東日本バドミントン部地域感謝祭」を開催しました。子どもたちへのバドミントン競技の普及を図るほか、コロナ禍での在宅勤務の疲れを解消するためのエクササイズ動画、東京2020大会に向けたオンライントークイベントの動画制作など、連携して市のスポーツ振興事業に取り組んでいます。



地域感謝祭



トークイベント動画撮影

パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興

「調布市障害者スポーツの振興における協議体」

「障害者スポーツの振興」という目的のもと、東京都との連携により、スポーツ分野と福祉分野の関係団体による協議体を設置し、各団体の現状や課題、又は障害者スポーツ振興のためにできること等を持ち寄り、連携の可能性を見出し、課題解決に向けた話し合いや事業を行っています。

協議体事業としては、障害者スポーツの振興についての講習会や市内作業所に指導員を派遣して障害者の日常的な運動機会の創出を図るなど、具体的な取組につながるような事業を実施しています。

参加団体：調布市体育協会、調布市スポーツ推進委員会、NPO法人調和SHC倶楽部、調布市社会福祉協議会、調布市社会福祉事業団、調布市福祉作業所等連絡会、地域生活支援センター希望ヶ丘、東京都障害者スポーツ協会、東京都、調布市スポーツ振興課・障害福祉課



障害者スポーツ協議体



協議体講習会

「日本車いすバスケットボール連盟との相互協力協定締結」

市と日本車いすバスケットボール連盟は、東京2020パラリンピック競技大会の調布市内開催競技である車いすバスケットボールを通じた障害者スポーツの発展・振興のため、相互協力し、地域社会における障害者スポーツの発展と共生社会の実現に寄与することを目的として、2019年8月22日に協定を締結しました。障害者スポーツ体験会や東京2020大会に向けた動画制作など、連携した取組を実施しています。

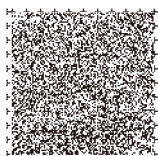
また、2018・2019年に武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP では、総合体育館等を拠点として、日本代表をはじめ、ドイツ代表、韓国代表チームの事前キャンプの受入を行いました。



作業所での事業



車いすバスケット協定締結式



「障害者スポーツ体験会」

プレーを見るだけでなく、競技を体験してもらうことで、障害者スポーツの難しさや面白さを体験し、より身近に感じることを目的として実施しています。日本車いすバスケットボール連盟や日本ブラインドサッカー協会、東京都障害者スポーツ協会、FC 東京など様々な主体と連携し、車いすバスケットボールやボッチャ、ゴールボールや5人制サッカー（ブラインドサッカー®）、シッティングバレーボール、ウォーキングサッカーなど毎回体験メニューを充実させながら、年齢や障害の有無にかかわらず多くの方に参加いただいています。また、武蔵野の森総合スポーツプラザとの共催事業として、調布市内のみならず地域全体への障害者スポーツ振興に寄与しています。



障害者スポーツ体験会



障害者スポーツ体験会

「東京都市町村ボッチャ大会」

パラリンピックを契機として、2019年度から多摩地域26市3町が連携してボッチャ大会を開催するなどボッチャの普及・発展に向けた取組を行っています。市では調和SHC倶楽部や調布市スポーツ推進委員会と連携したボッチャ交流会を予選会と位置付け、障害の有無にかかわらず多くの方がボッチャを楽しみました。



市町村ボッチャ大会

「障害者余暇活動支援事業（ほりでーぱらん）」

主に、重度知的障害のある方を対象とした余暇活動イベントを開催し、余暇活動の充実、運動不足の解消、ご家族の負担軽減を図るものです。イベント開催にあたっては、ボランティアや地域住民、関係機関の協力を得ることで、障害理解の促進を図ることも目的としています。



障がいのある人もない人もみんなで楽しもう交流会

「FC東京あおぞらサッカースクール・交流会」

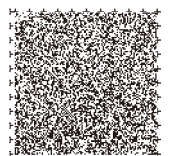
FC東京と連携し、主に知的・発達障害のある方を対象にサッカースクールを開催しています。障害の程度に合わせたクラス設定を行うことで、参加者の得意なことやできることに合わせた内容を実施しています。また、年に数回、他のチームとの交流会も実施し、サッカーを通して仲間との交流を深めています。



あおぞらサッカースクール



あおぞらサッカー交流会



ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会を契機としたラグビー競技の普及

「調布スクラムフェスティバル」

調布市体育協会や調布市ラグビーフットボール協会等と連携し、調布駅前広場等を会場にラグビー体験やトークショー等を実施し、だれもがラグビー競技に触れ合える機会を創出することで、ラグビー競技の普及及びラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成を図りました。



スクラムフェスティバル

「調布市小学生タグラグビー大会」

市と調布市ラグビーフットボール協会、調布市教育委員会との連携により実施しました。市内で開催されたラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック競技大会7人制ラグビーを契機に、ラグビー競技への関心や機運を向上・継続させること、また、市内小学生のタグラグビーを通じて心身の調和のとれた発達と生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てることなどを目的とし、市内小学校4年生から6年生までのチームがタグラグビーを通じて交流を深めました。ラグビーという競技を身近に感じるとともに、ラグビーを知る・楽しむ機会となっています。



小学生タグラグビー大会

「府中・調布・三鷹3市連携事業」

ラグビーフェスティバルでは、3市及び府中市を拠点に活動している東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアスと連携し、トレーニングマッチ、トークショーやラグビー体験などを実施しました。また、ラグビー応援キャラクターの「ラガマルくん」と協力し、ラグビーや7人制ラグビーのルール・魅力を発信するガイドブックを作成し、市立小・中学校の全児童・生徒に配布するとともに市内公共施設に配架しました。さらには、2022年1月に開幕した「ジャパンラグビーリーグワン」第1節の東京サントリーサンゴリアス対東芝ブレイブルーパス東京の味の素スタジアムでの試合に3市の市民等を対象とした招待事業を実施しました。



ラグビーフェスティバル

「東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、 府中市、調布市、三鷹市連携協定」

5者の関係性をより一層強固なものとし、ラグビーを通じてさらなる発展と充実に寄与することを目的に、2021年4月に締結しました。市では東京2020大会に向けたオンライントークイベントを連携して実施したほか、両チームとも定期的な情報共有の場を持ち、連携事業の実施に向けた具体的な検討をしています。



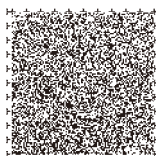
5者協定締結式

市報新春号2022年において、味の素スタジアムを拠点とするFC東京、東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアスとのインタビューを特集し、

3チームとの今後の連携について紹介しました。今後も3チームを市をあげて応援していきます。



新春号インタビュー





調布市に練習活動拠点を持つNTT東日本バドミントン部。

「東京2020大会」を通じての経験や、企業スポーツと地域貢献について、須賀監督に伺いました。



NTT 東日本バドミントン部 監督

すか 須賀 隆弘 さん

PROFILE

1994・1995年 全日本社会人選手権 MS 優勝(大会2連覇)。
 1996年 全日本総合選手権男子シングルス優勝。
 2000年 全日本総合選手権混合ダブルスベスト4。
 現在、NTT 東日本バドミントン部の監督を務め、多くの名プレイヤーを指導している。

Q 東京2020大会のバドミントン競技会場が、調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されて良かった点をお聞かせください。

自国で開催されるオリンピックというのは、一生に一度あるかないかだと思います。ましてや、私たちの練習活動拠点としてお世話になっている調布市で、東京2020大会という世界的に大きな試合が開催され、これまで以上にオリンピックを身近に感じられました。

大会に出場した桃田賢斗選手はもちろんですが、NTT 東日本バドミントン部メンバーのモチベーションアップやチームワークを高めることにもつながりました。

Q 東京2020大会において、印象に残ったことをお聞かせください。

桃田選手のことで言うと、2020年1月にマレーシアで大事故に遭い、さらにコロナによる影響で、2020年の東京2020大会の開催が1年延期になりました。海外はもちろん国内の練習試合や大会も次々と中止になり、モチベーションの維持に桃田選手自身も相当苦労していました。

そして、周りからのプレッシャーがある中、いろんな想いを背負って“なんとかしてでも試合に勝とう!”という執念を持って一生懸命戦ってくれたことについては、監督の私としても誇らしく思っています。

皆さんが期待していた結果には至らなかったですが、桃田選手の人生の中で様々な苦難を乗り越えて東京2020大会のコートに立つことができたという、それまでのプロセスに価値があるのではないのでしょうか。

調布市民の方々をはじめ桃田選手を支えてくださった皆さんに、オリンピックの



桃田選手のご快復を祈念して市民やファンの皆さまから届けられた千羽鶴

コートに立って試合をする姿を見ていただけて、十分に感謝の気持ちを伝えられた大会になったと感じました。

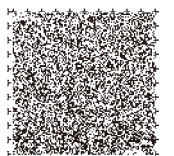
Q 調布市がこれからも国際的なスポーツ拠点となるために、どのように貢献していきたいですか。

武蔵野の森総合スポーツプラザでは、「ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン」など様々な国際試合が開催されています。桃田選手以外にもNTT東日本バドミントン部から一人でも多く出場して活躍することが、貢献の一つになると思っています。さらに、調布市民の選手がそこで活躍して市民の方々はその選手を応援すると、調布市でスポーツがもっと盛り上がるはずですよ。

私たちがのようにスポーツをしている人や企業がすることは、調布市在住・在学の小学生を対象に指導や交流を行った「NTT 東日本バドミントン部地域感謝祭」のように、一緒にバドミントンをして地域の子どもたちを元気にすること。そうすれば、ご両親や周りの方々も笑顔になり、地域が活性化すると思います。このような施策を市役所の方々と一緒に今後も行っていきたいです。

Q 最後に調布市民の皆さんへ、メッセージをお願いいたします。

日頃からNTT 東日本バドミントン部へのご支援とご声援をいただき、本当に感謝しています。これからも調布市民の皆さんが元気になれるようなイベントなどへ、よりいっそう協力していきたいです。また、強いNTT 東日本バドミントン部をこれからも見ていただきたいので、引き続き応援をよろしくをお願いいたします。



アクション&
レガシープラン 取組

2

産業・観光振興

東京2020大会の開催の機会を捉えて、商工会、観光協会及び市内事業者など、多様な主体と連携し、調布市の魅力発信に取り組みました。また、主要な地域資源である花火を活用することにより、開催に向けた機運醸成やにぎわいの創出に努めました。

主なアクション

- 映画のまち調布花火
- 駅前広場を活用したにぎわい創出に関する取組
- シネマコンプレックス、映画・映像関連企業と連携した「映画のまち調布」の推進
- ロケツーリズムの推進
- 「水木マンガの生まれた街 調布」の推進
- Wi-Fi 環境整備の推進、多言語版観光マップの作成、多言語による観光情報の提供等のインバウンド対策事業
- 調布市の特徴ある土産物の紹介

創出するレガシー

- 地域資源を活用した魅力発信及び調布市の知名度の向上（東京ブランドの一角を形成）
- 多言語の観光情報の提供及び Wi-Fi 整備の推進等によるインバウンド対応の環境整備
- 東京2020大会の開催地であったことを後世に伝える取組による、市民の地域への誇り（シビックプライド）の醸成



映画のまち調布花火

1982年から始まった調布市花火大会は、市内外を問わず愛され続けています。

2019年度に開催した「映画のまち調布花火2019（第37回調布花火）」では、ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会の応援ソングに合わせた花火を打上げ、機運醸成につなげたほか、音楽と花火がコラボレートする調布花火名物「ハナビリュージョン」に、光と炎の演出を加えた「新ハナビリュージョン」を実施するなど、にぎわいの創出に努めました。

2020年度及び2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、開催を中止しました。東京2020大会が開幕する2021年7月23日には、大会に出場する選手を紹介し、応援するための取組としてオンライントークイベントを実施し、市内で開催される競技の魅力や見どころを伝えるとともに、フィナーレでは、多摩川河川敷で日本代表応援花火を打上げました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、短時間・無観客での花火打上げとなりましたが、多摩川の灯籠流しを起源とした多摩川の地域花火を継承するイベントが実施できました。

東京2020大会に向けた機運醸成・にぎわいの創出を目的に、2017年から続けてきたサマーフェスティバルの花火については、来年度以降についても東京2020大会のレガシーとして継承していきます。

開催日時	2021年7月22日（木） 午後7時37分から午後7時43分まで
打上場所	調布市多摩川河川敷 （京王相模原線鉄橋より上流側）
総打上数	約400発
打上号数	最大2.5号玉
主催	調布市 調布市観光協会
その他	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドラインを踏まえ、無観客（オンライン配信）で実施



映画のまち調布花火



日本代表応援花火



ねぶくろシネマ

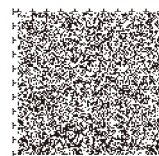


調布市観光案内所「ぬくもりステーション」

駅前広場を活用したにぎわい創出に関する取組

市の交通の玄関口である調布駅前広場において、「ゲゲゲ忌」、調布観光フェスティバル及び調布和めぐりなどのイベントを実施し、地域資源である深大寺などの事業と連携することにより、調布駅周辺のにぎわいを市内に波及させる取組を推進しました。2020年11月21日～30日に実施した「ゲゲゲ忌2020」では、調布駅前広場でのイベントやスタンプラリーなど、延べ14,000人が参加しました。また、調布市観光案内所「ぬくもりステーション」での観光情報のPRにも力を入れ、市内の回遊性向上につなげました。

市内の父親たちが周囲に気兼ねなく子どもたちと映画を観たいという思いから始めた、調布発祥の野外映画館「ねぶくろシネマ」は、2020年9月21日に調布駅のトリエ京王調布B館の壁面を利用して「怪盗グルーの月泥棒」を上映し、240人の来場がありました。



シネマコンプレックス、映画・映像関連企業と連携した「映画のまち調布」の推進

日活調布撮影所、角川大映スタジオなど映画・映像関連企業が集積し、多摩地域最大級のシネマコンプレックス「イオンシネマ シアタス調布」が立地する特徴を生かし、映画・映像関連企業と連携した「映画のまち調布」の取組を推進し、観光振興を図りました。

また、地域経済活性化を目的として、商店会との連携にも力を入れました。イオンシネマ シアタス調布の当日座席指定券を加盟店で提示すると、各店舗で独自に設けたサービスを受けられる「半券サービス」事業を実施したほか、城西国際大学の学生が授業の一環として、商店会のPR動画を制作し、イオンシネマ シアタス調布のプレアド（本編上映前の広告）で上映しました。

そのほかにも、「映画のまち調布」応援キャラクター・ガチョラの活用や、市民団体との連携による親子向けの映画上映会の実施など、「映画のまち調布」ならではの取組により、にぎわいの創出につなげました。



映画半券サービス



ガチョロプレアド



「みる」母と子の映画寺子屋

ロケツーリズムの推進

市を主な舞台に撮影された映画「花束みたいな恋をした」（主演：菅田将暉・有村架純）の上映を契機として、東京観光財団の観光まちづくり支援事業助成金や、観光庁の「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業の活用により、新たなロケツーリズムコンテンツ（ロケ地マップ、ロケ地観光パネル、ロケ地紹介映像、「映画のまち調布 謎解き街めぐり」の実施など）を作成・発信し、東京2020大会の観戦を含め、来訪者が回遊できる仕組みを構築することで、「映画のまち調布」のPRや地域経済活性化につなげる取組を実施しました。

1. 観光まちづくり支援事業

映画「花束みたいな恋をした」ロケ地マップ制作 12,000部発行

2. 調布市がメイン舞台の新作映画を活用したロケツーリズム開発プロジェクト（「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業）

(1) ロケ地観光パネル設置

深大寺（NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」）、
調布市文化会館たづくり7階（フジテレビドラマ「パーフェクトワールド」）、
調布 PARCO 5階パルコブックセンター（謎解きイベント実施中 PARCO 1階）、
御塔坂児童遊園、多摩川児童公園（映画「花束みたいな恋をした」）の計5か所に設置

(2) ロケ地紹介映像「MISSION IN CHOFU」制作

イオンシネマ シアタス調布プレアド（2021年1月8日～3月30日）、
京王線調布駅改札階中央口付近映像モニター、調布観光ナビ、
調布市公式ホームページなどで公開

(3) 「映画のまち調布 謎解き街めぐり」実施

オンライン版：2021年1月29日～2月14日

リアル版：2021年3月22日～3月30日



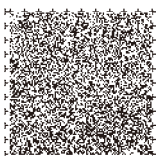
ロケ地マップ



ロケ地観光パネル



ロケ地紹介映像
「MISSION IN CHOFU」



「水木マンガの生まれた街 調布」の推進

調布に50年以上お住まいであった、調布市名誉市民・水木しげるさんの御功績を称え、2020年度で5回目を迎えた「ゲゲゲ忌」を中心として、「水木マンガの生まれた街 調布」の事業を推進しました。国内外にファンがいる水木しげるさんの作品は、調布市を舞台として描かれているものも多いため、市内を回遊する仕組みづくりを行い、調布のまちの魅力向上や水木しげるさんと調布市の関わりを知ってもらう機会につなげたほか、調布駅前広場、鬼太郎ひろば及びイオンシネマ シアタス調布におけるイベント実施により、にぎわいを創出しました。

1. ゲゲゲ忌2020の開催

御命日である11月30日を中心とした「ゲゲゲ忌2020」の期間中に、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じたうえで、水木しげるさんゆかりのスポットを巡るスタンプラリーや調布駅前広場でのイベントなどを開催し、市内外から多くの方に参加していただきました。

- (1) 日程 2020年11月21日から同月30日まで
- (2) 会場 調布市内各所
- (3) 主なイベントの参加者数
 - ゲゲゲのスタンプラリー
(市内12か所の水木しげるさんゆかりのスポットを巡るスタンプラリー)
約7,500人
 - ゲゲゲ横丁・ゲゲゲの森
(調布駅前広場で開催した、水木作品のキャラクターステージやキャラクターグリーティング、ケータリングカーの出店などを実施したイベント)
約5,000人
 - ゲゲゲ忌2020アニメ特別上映会(「ゲゲゲの鬼太郎」などのアニメ上映会と、出演声優やメインスタッフによるトークショーやキャラクターショーを実施したイベント)
来場者数687人、ストーリーミング配信視聴者数630人
 - ゲゲゲ忌コスプレイベント～調布市ブリガドーン計画～
(鬼太郎ひろばでの水木作品キャラクターのコスプレイベント) 約200人

2. 調布市×「ゲゲゲの鬼太郎」(第6期) 聖地巡礼マップ(総集編)を発行

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」(第6期)(2018年4月から2020年3月まで放送)には、調布市内のスポットや調布を舞台に描かれたシーンが数多く登場することから、調布市×「ゲゲゲの鬼太郎」(第6期) 聖地巡礼マップ(VOL. 1～VOL. 5及び総集編)を発行しました。

東京2020大会を目的とした来訪者が、アニメの登場シーンと実際のスポットを見比べながら「水木マンガの生まれた街 調布」を回遊できるような仕組みづくりを行いました。

3. 多言語観光情報サイト「Guidoor」に

「水木マンガの生まれた街 調布コース」を設定

後述する、多言語観光情報サイト「Guidoor」において「水木マンガの生まれた街 調布コース」を設定し、東京2020大会を目的として来訪した人たちに回遊を促進する環境づくりを行いました。



© 水木プロ
© 水木プロ・東映アニメーション

ゲゲゲ忌2020



ゲゲゲ忌コスプレイベント～調布市ブリガドーン計画～

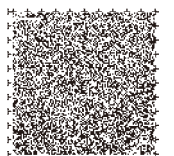


ゲゲゲ忌期間中の産業振興課の様子



© 水木プロ
© 水木プロ・フジテレビ・東映アニメーション

調布市×「ゲゲゲの鬼太郎」(第6期)
聖地巡礼マップ総集編



Wi-Fi 環境整備の推進、多言語版観光マップの作成、多言語による観光情報の提供等インバウンド対策事業

訪日外国人観光客の回遊性・利便性の向上を図るため、多言語版観光マップの作成、深大寺参道にあるフリーWi-Fiのセキュリティ強化並びに市内飲食店等に対するフリーWi-Fi整備の推進など、調布市観光協会と連携したインバウンド対策に取り組みました。

また、一般社団法人モバイルスマートタウン推進財団の全面協力により導入した多言語観光情報サイト「Guidoor」（10か国語）においては、市内の観光情報を充実させるとともに、スマートフォン型の2次元コード付き広報物を作成し、来訪者が調布の情報を取得できる環境整備を図りました。

(1) 調布市観光マップ多言語版の作成

英語版・中国語（繁体字版・簡体字版）・韓国語版の4種類を作成し、外国人観光客が観光マップを利用して最新の観光情報を取得できる環境整備を行うことで、利便性及び回遊性を向上させることができました。

(2) フリーWi-Fiの整備

外国人観光客からニーズの高いWi-Fi環境を市内飲食店等に整備することで、利便性及び満足度の向上を図りました。

(3) 多言語観光情報サイト「Guidoor」の充実

市内の観光情報をPRするための2次元コード入り広報物を発行し、観光客が市内の観光スポットを回遊できる環境を整備しました。



Guidoor



調布市観光マップ多言語版



Chofu Free Wi-Fi

モバイルスマートタウン推進財団との
インバウンド観光推進に関する
パートナーシップ協定締結式



調布のおみやげ

調布のおみやげ
LINEスタンプラリー

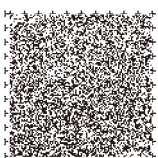


調布市の特徴ある土産物の紹介

来訪者に調布の魅力をPRし、地域経済を活性化するために、調布市商工会と連携して「調布市お土産 SELECT」事業を実施しました。アンケートの実施により、「調布のおみやげ」を選定し、それを紹介するホームページの作成や日本語版・英語版のチラシを発行したほか、事業の対象店舗を回遊する調布のおみやげLINEスタンプラリーも実施し、調布のおみやげの魅力発信につなげました。

新型コロナウイルスの感染拡大による影響

東京2020大会を目的として来訪する国内観光客や訪日外国人に向けたイベントを充実させ、にぎわいの創出や観光振興の強化を図る予定でしたが、2020年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、中止や規模縮小を余儀なくされました。





調布市内事業者の経営や事業資金などの相談や支援を行っている調布市商工会。
地域振興における取組や今後の課題について、商工会のお二人に語っていただきました。



調布市商工会 商工振興課・経営指導員 中川 貴史 さん
調布市商工会 事務局長 横田 誠 さん

Q 「ラグビーワールドカップ2019」「東京2020大会」に向けて取り組んできた内容をお聞かせください。

横田さん:ラグビーワールドカップ2019用ののぼり旗を商店街や駅からスタジアムまでの動線上に立てたり、市役所で作られたポスターを商店街に届けて掲示してもらったりして、街を盛り上げました。

中川さん:そのほか、海外からお客様がお店へ来られたときの対応として、インバウンド向けの接客マニュアルを作成して配布し、セミナーも開催しました。メニュー表なども裏面に英字を記載するなど、多言語化のサポートも飲食店向けに行いました。

横田さん:東京2020大会への取組としては、2019年から調布市の補助を受け「地域共生推進ふれあい商店等補助事業」を実施しました。店舗などのバリアフリー化にかかる経費の補助を行い、だれもが利用しやすい店舗づくりの推進に取り組んでいます。

Q 両大会へ向けた取組を通して、市内商工業の発展や地域振興といった観点でどのようなことが残せたかお聞かせください。

横田さん:これを機にインバウンド対応という意識が、私たちはもちろん商店街や飲食店などの皆さんにできたと思います。調布に来た方へのお土産を作るお店の支援も商工会として行いました。ラグビーワールドカップ2019に向けて皆さん積極的にアイデアを出し合ってくれたので前向きに取り組むことができ、オリジナルのラグビー応援手拭いなどを協力して作りました。

中川さん:前向きに取り組んでいる事業者への補助金や支援

策は多いので、相談をきっかけに商工会として支援策活用提案も一生懸命がんばりました。ほかにも、一緒に取り組んでくれる事業者を紹介してください!という相談も。紹介から繋がりができて、お土産用のお酒を作られた事業者もいらっしゃいました。

Q より一層の市内商工業の発展や地域振興のために、今後どのようなことに取り組みたいかお聞かせください。

横田さん:今後は、より広い集客と魅力を発信していけるように、SNSを活用した魅力発信やキャッシュレスへの取組を強化していく必要があると考えています。

中川さん:若いオーナーや経営者はSNSをやられていますが、年配の方の中にはSNSが合わないという人もいらっしゃるようで。そういった人のためにもお店の紹介や魅力発信のサポートをしていきたいです。

横田さん:若者のアイデアと、年配の方の長年の経験や知恵が一緒になることで、より良い魅力発信ができるのではないのでしょうか。

若い商工会職員が一生懸命がんばっているのですが、すぐに結果は出ないかもしれませんが、若い人の発想を尊重しようというのが柳澤商工会長の方針です。

中川さん:新旧の融合といった点で言うと、商店街と駅前の商業施設や大型店が、一緒に街を盛り上げようと月1回程度会議を開いています。今度このようなイベントをやるんですといった情報交換がされ、一緒に何かやりましょう!と様々企画されているようです。そうやって、どんどん地域振興が広がっていくと私たちも嬉しいです。

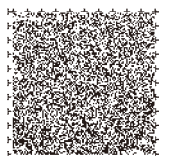
Q 最後に、調布市の商工業者の皆さんへメッセージをお願いします。

横田さん:市役所と協力して、調布市を盛り上げようとイベント施策などもがんばっていますので、これからも連携して地域振興に取り組んでいきたいと思っています。

中川さん:今はコロナ禍なので、ぜひ商工会を上手に利用してもらいたいです。商工会では助成金などの相談にものれますし、何かしらお力になれると思うので気軽に足を運んでください。一緒に魅力を発信していきましょう。



- 1 事業者同士が協力して作ったお土産用の焼酎
- 2 接客マニュアルなどインバウンド向けツールを作成
- 3 ラグビー応援手拭い



アクション&
レガシープラン 取組

3

まちづくり

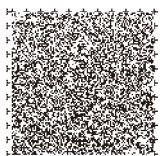
京王線地下化に連動した調布のまちの骨格づくりを進め、地域の特性を生かした環境負荷の少ない持続可能で、安全・安心、魅力的なまちづくりを推進しました。また、ユニバーサルデザインの考え方に基づく福祉のまちづくりを推進するとともに、市民や来訪者の回遊性を高めるため、外国人を含む利用者の視点に立った分かりやすく親しみやすい公共サイン整備、受動喫煙防止など、開催会場である地元市としての環境整備に向けた取組を進めました。

主なアクション

- 安全・安心なまちづくり
- 競技会場周辺等の環境整備、福祉のまちづくり
- 環境に配慮したまちづくり

創出するレガシー

- 地域の特性を生かした環境負荷の少ない持続可能で魅力的な都市空間の形成
- 外国人を含む利用者の視点に立った、分かりやすく親しみやすい公共サイン整備による回遊性の向上
- ユニバーサルデザインの考えに基づく福祉のまちづくりの推進



京王線地下化に連動した調布のまちの骨格づくり

にぎわいや交流、うるおい、やすらぎを生み出す都市空間機能を兼ね備えた駅前広場の整備や調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した都市空間の整備など、市民や来訪者にとって魅力的なまちづくりを推進しました。とりわけ、大型商業施設の開業と合わせたまちのにぎわいの創出につなげるなど、ソフト・ハードが一体となったまちづくりを大きく前進させました。

安全で環境にやさしいまちづくり

スタジアム通りの改修による歩道のバリアフリー化をはじめ、遮熱性舗装による暑さ対策、スタジアム周辺の無電柱化による都市景観の向上を図ったほか、飛田給駅周辺では、西側踏切における歩行者の安全確保のための拡幅工事やミストシャワーの設置など、来訪者を意識した競技会場周辺の環境整備を推進しました。こうした各種ハード整備に加え、商工会と連携してユニバーサルデザインのまちづくりを推進する「地域共生推進ふれあい商店等補助事業」や、駅前のクリーン作戦など、各種ソフト事業を実施することで、ソフト・ハード両面から安全で環境にやさしいまちづくりを推進しました。

【ハード面】これまでの主な取組

- 公共施設のバリアフリー化の推進（総合体育館、避難所（小・中学校体育館）の段差解消、地域福祉センターの内装改修（和室の洋室化）・段差解消・手すりの設置・備品装備など）
- 人と環境にやさしい道路整備（スタジアム通り・品川通りバリアフリー化、遮熱性舗装など）
- トイレの洋式化（公共施設のトイレ洋式化率90%）
- ユニバーサルデザインに対応した公衆トイレの新築及び改修（調布駅前、深大寺前、飛田給北、つつじヶ丘北）
- サポートベンチの設置、公園・ポケットパークの整備
- 多言語を含む公共サインの計画検討・設置
- Wi-Fi 環境整備、多言語マップの作成
- 音声誘導装置の設置（市公共施設14か所）
- 事業者と連携・協働による調布市バリアフリー特定事業計画の推進
- 街頭防犯カメラの設置（調布駅、西調布駅、飛田給駅周辺）など



公共サインの整備

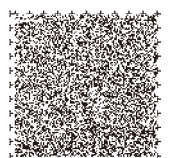
ラグビーワールドカップ 2019や東京2020大会を見据え、スポーツ祭東京2013の開催時に飛田給駅から競技会場まで設置した誘導サイン等の整備・更新をするとともに、会場周辺に歩行者用観光案内標識を設置しました。



デザインマンホール蓋



紙コースター



地域共生推進ふれあい商店等補助事業

市内の商店がバリアフリーを実施するために必要な改修及び備品等の購入費用の一部を補助することにより、市内のバリアフリー化を促進するとともに、障害理解を促進いただれもが障害者等に対し合理的な配慮を提供する意識の向上を図ることを目的として実施しました。



CHOFU プラスチック・スマートアクションロゴ



海洋プラスチックごみパンフレット

CHOFU プラスチック・スマートアクション

海洋プラスチックごみは、日常生活から廃棄されるプラスチックが、ごみとして海に流出することで、細かく砕かれてマイクロプラスチックになり、海洋汚染や生態系に影響を与える世界的な環境課題となっています。

市は、東京2020大会を契機として、市民・事業者等との連携・協働によるプラスチックごみの減量や海洋流出防止につながる市独自の取組の実践に向け、2020年4月より「CHOFUプラスチック・スマートアクション」の取組を開始しました。職員による率先行動や市民・事業者等と一体となった行動により、使い捨てプラスチックの削減やリユース・リサイクルの推進、多摩川・野川クリーン作戦等の環境美化活動の取組などを積極的に実施しています。

調布市ゼロカーボンシティ宣言

地球規模で発生している熱波や集中豪雨など、これまで経験したことのない自然災害や異常気象が深刻化する中、気候変動への対策は喫緊の課題です。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べ2℃より十分に低く抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」との目標が広く共有されましたが、2018年に公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するためには、「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが必要」であることが示されました。

2021年4月16日、市と市議会は、脱炭素社会の実現に向けて「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。持続可能性をテーマにカーボンマイナス大会を実現した東京2020大会を契機として、市は、市民や事業者と協働して市域全体で地球温暖化対策の取組を推進することにより、「2050年ゼロカーボンシティ」に向けた取組を進めます。

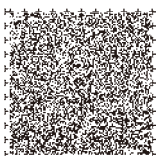


ゼロカーボンシティ宣言



メダルプロジェクト

東京2020組織委員会と連携し、廃家電製品回収による「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に参加しました。このプロジェクトで集められた金属は、オリンピック・パラリンピックのメダルとなり、環境にやさしい持続可能な社会に向けたレガシーとなっています。



自転車推奨ルート

東京2020大会に向け、東京都の自転車推奨ルートの検討に合わせて、東京都と連携し、東京スタジアム周辺道路の自転車走行空間の整備を進めました。



シェアサイクル

市民や来訪者への利便性・回遊性の向上を図るため、民間事業者と連携し、市内9駅周辺にある駐輪場などを活用して電動アシスト自転車のシェアサイクルの取組を推進しています。

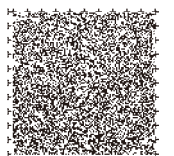
受動喫煙防止

受動喫煙による健康への悪影響から市民等を守り、子どもたちをはじめだれもが健康に暮らせるまち調布の実現に寄与することを目的として、2019年7月に調布市受動喫煙防止条例を施行しました。東京2020大会後においても、引き続き調布を訪れる方々の健康被害を防ぐため、市民や医師会等と連携し、受動喫煙防止に向けた取組を推進しています。



調布駅前・飛田給駅前クリーン作戦

調布駅前・飛田給駅前周辺を、市民・事業所の皆様と清掃活動を行うことで、地域の交流や活性化を図り、今後もよりきれいな親しまれる場所とすることを旨し、クリーン作戦を実施しています。このクリーン作戦には、近隣の事業者・自治会・商店街など10団体を超える方々に加え、調布市おもてなしボランティアの皆さまにも参加していただきました。



飛田給駅・西調布駅・調布駅周辺花いっぱい事業

ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会のおもてなしの一環として、競技会場である東京スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザに近い飛田給駅、西調布駅、調布駅周辺で花いっぱいサポーターを中心に、花壇の植え付けや花のコンテナ等での花装飾を実施しました。両大会終了後もこの活動はさらに継続していきます。

調布市花いっぱいサポーター

2018年度、2019年度に市で主催している「花いっぱいサポーター養成講座」の受講生（花いっぱいサポーター）が土づくりや育て方を基礎から学び花苗を植え、花壇等を作りました。大会終了後は飛田給駅・西調布駅・調布駅周辺の花苗の植え替えや水やりなどの維持管理を行っています。

パラリンピックレガシーの創出

パラハートちょうふ
つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち

心のバリアフリー
ユニバーサル
デザイン

障害の有無にかかわらず、子どもから

〇市では、障害の有無にかかわらず、だれもが住み慣れたまちで安心して暮らし続けられる共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念に基づきまちづくりを進めています。

調布市福祉のまちづくり推進計画 福祉関連諸計画

連

関連分野別計画等

- 地域福祉計画 ● 高齢者総合計画
- 障害者総合計画
- 地域福祉活動計画（社会福祉協議会）など

障害を理由とする差別の

ユニバーサルデザイン
（内閣官房 東京オリンピック）

ソフト面の取組

これまでの主な取組

- 障害者スポーツの推進（ボッチャ体験会、障害児・者フットサル事業など）
- ほりでーぱらん（障害者余暇活動支援事業）の実施
- 調布・多摩・府中ほっとハート（障害者福祉施設自主製品販売会）の実施
- わくわく（福祉作業所等連絡会情報誌）の発行
- 心のバリアフリーの啓発、ヘルプマークの普及啓発
- オリンピック・パラリンピック教育の推進（障害者理解）
- バリアフリーハンドブックの作成
- パラアート展の開催
- 障害をテーマとした映画上映会の開催
- 情報バリアフリーの推進（ウェブアクセシビリティの向上）など

基本計画の位置付け

障害者スポーツの推進

- 障害者スポーツの振興
- パラスポーツ体験機会の創出（ボッチャ体験、車いすバスケットボール等）
- 障害者スポーツ・余暇活動の場の確保（障害児・者フットサル、ほりでーぱらん等）

障害者理解の促進

- 障害者差別解消法の普及啓発
- 福祉作業所等連絡会、調布心身障害児・者親の会等と連携した取組
- 商工会と連携した障害理解の促進
- パラアート等の普及推進
- だれもが芸術・文化に触れることができる機会の創出

オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成

- 心のバリアフリーの推進 ● 多様性を尊重する意識の醸成

創出するパラリンピックレガシー

心のバリアフリーの推進 / 様々な障害に対する理解の推進

連携・推進体制

- 障害者差別解消支援地域協議会 ● 障害者地域自立支援協議会 など



高齢者まで、だれもが暮らしやすいまちづくり

○2020年のパラリンピック競技大会を契機として、これまでの取組を一層推進するとともに、障害者スポーツの普及や障害者への理解促進、だれもが移動しやすい環境整備や公共施設のバリアフリー化など、多様な主体との連携・協働により、有形・無形のパラリンピックレガシーを創出していきます。

携

調布市バリアフリー基本構想
調布市バリアフリー特定事業計画

移動の円滑化
ユニバーサル
デザイン
バリアフリー

解消の推進に関する法律

2020行動計画
・パラリンピック推進本部)

関連分野別計画

- 都市計画マスタープラン
- 総合交通計画
- 道路網計画 など

ハード面の取組

これまでの主な取組

- 公共施設のバリアフリー化の推進
- 人と環境にやさしい道路整備
- トイレの洋式化(市公共施設のトイレ洋式化率90%)
- ユニバーサルデザインに対応した公衆トイレの新築及び改修
- サポートベンチの設置、公園・ポケットパークの整備
- 多言語を含む公共サインの計画検討・設置
- Wi-Fi環境整備、多言語マップの作成
- 音声誘導装置の設置(市公共施設14か所)
- 事業者と連携・協働による
調布市バリアフリー特定事業計画の推進
- 街頭防犯カメラの設置(調布駅、西調布駅、飛田給駅周辺)など

基本計画の位置付け

移動の円滑化・バリアフリー化の推進

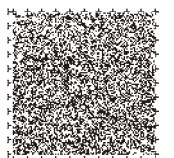
- すべての人が円滑に移動できる交通環境の整備
- 競技会場周辺のバリアフリー化(スタジアム通り、品川通り)
- スポーツ施設等のバリアフリー化、公衆・公園トイレの改修に向けた検討
- 多言語を含む公共サインの整備
- 商工会を通じたバリアフリー化の推進(市内飲食店・商店におけるバリアフリー設備等の設置促進)

創出するパラリンピックレガシー

ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

連携・推進体制

- 調布市バリアフリー推進協議会 など



出典：調布市基本計画(2019年5月)

アクション&
レガシープラン 取組

4

文化・国際交流・ 平和

だれもが、それぞれに応じた活動を通じて、豊かな芸術文化を育むまちづくりに取り組むまちとして、大会開催を契機に、文化プログラムと連動した取組を推進するとともに、地域ゆかりの文化の発信、国際交流、平和施策の取組を推進しました。

主なアクション

- 文化イベント等の実施
- ホストタウン・サウジアラビア交流事業
- 国際交流・国際理解の促進
- 平和・人権

創出するレガシー

- だれもが芸術文化に親しみ楽しめる環境づくりの推進
- 幅広い主体とのつながりや地域の文化資源を生かしたイベントの開催
- 日本の伝統や文化、参加国・地域の文化や言語、共生や平和の理念などに関する理解や生涯学習の推進



多様な主体と連携した芸術文化の振興

芸術文化活動を通じた共生社会の充実にに向けた取組

2017年度から調布市福祉作業所等連絡会との共催事業として、各作業所等で活動されている方々のアート作品を展示する「パラアート展」を開催しています。パラアート展は、開催を重ねるごとに参加・出展団体も増え、個人の作品、グループで制作された作品、そして作業所等の枠を超えて、合同で制作された作品など、アート活動を楽しみながら制作された個性豊かなアート作品が並びました。

2020年には、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団と連携し、共生社会の推進をテーマとした「調布・巡る・アートプロジェクト」を開催し、調布市グリーンホール・文化会館たづくり・せんがわ劇場において、現代アート作品の展示や



パラアート展作品制作の様子

市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップを実施しました。あわせて、印刷物への音声コード付記や作品に触れてもらい解説を行う鑑賞サポートなど、視覚障害者の方にも楽しんでいただけるよう、美術鑑賞へのアクセシビリティを高める取組を行いました。

また、調布市文化・コミュニティ振興財団では、職員育成の取組として、文化施設のバリアフリー事例の研究や、障害当事者の参加の下、音声ガイド・集団補聴・同行支援等の鑑賞サポートを行う映画上映会の実施、障害のある人が出演者となる場合を想定した舞台の上演などを行う「パラ劇場研修」を実施しています。

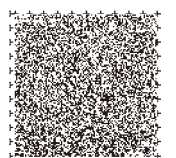


「東京五輪音頭 -2020-」の普及啓発

「東京五輪音頭 -2020-」の市内各地での展開に向けて、調布市文化協会会員及びNPO法人ちょうふこどもネット職員が講師となり、練習会を開催し、サマーフェスティバルでは参加者が輪になって踊りを楽しみました。また、市内の名所の映像とともに「東京五輪音頭 -2020- 調布バージョン」のミュージックビデオを作成し、東京2020大会の機運醸成とあわせて市の魅力発信にも取り組みました。

市内団体と連携した芸術鑑賞事業

市内を拠点に活動する劇団やバレエ団との共催により、市民向けの芸術鑑賞事業を実施し、市民が芸術文化に触れる機会を提供するとともに、青少年の情操教育を通して大会開催への機運醸成を図りました。

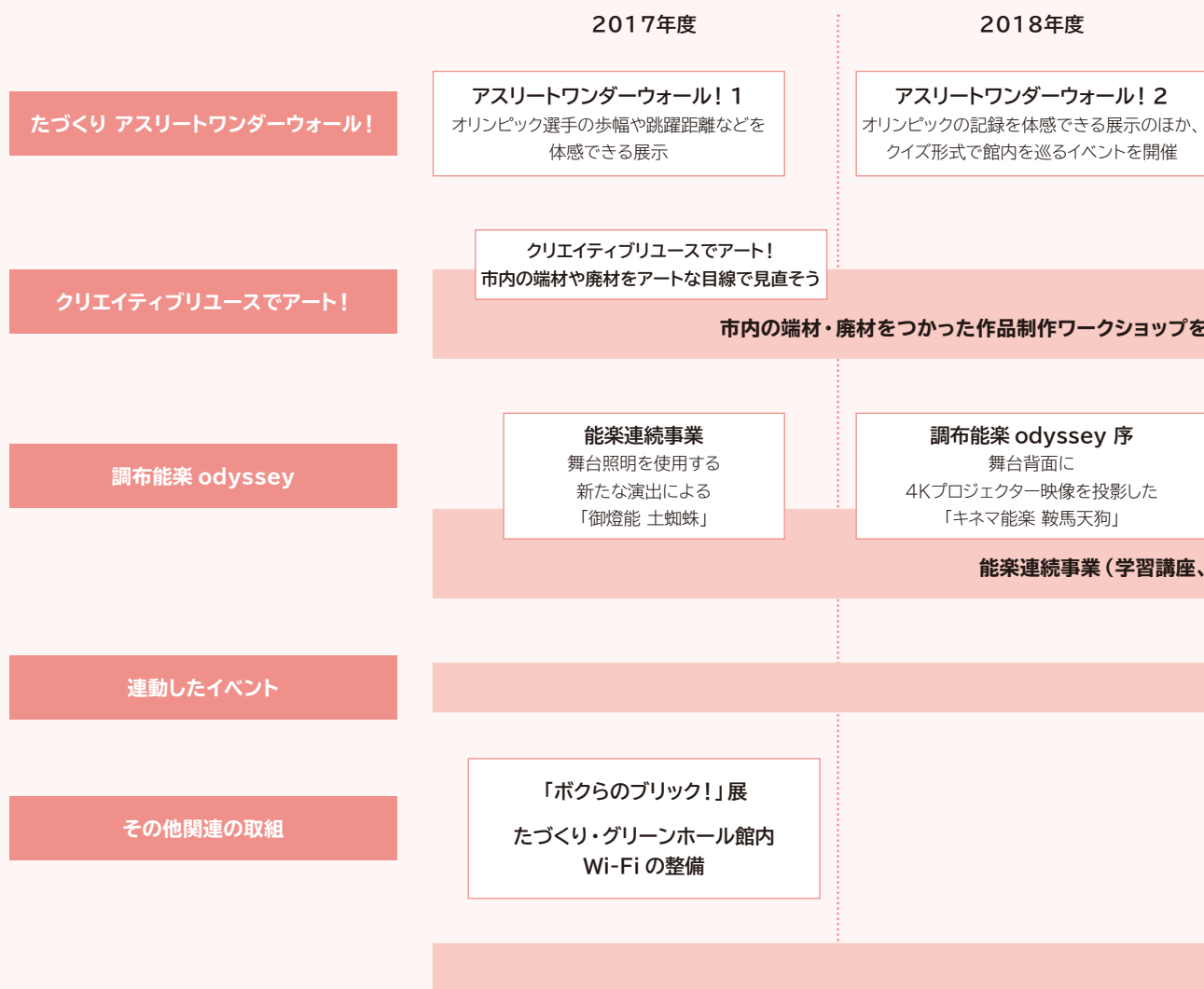


調布市文化・コミュニティ振興財団との連携

大会開催を契機として、次世代への伝統文化の継承、多様性の尊重、地域の文化資源の活用、次世代を担う芸術家・鑑賞者の育成等を推進する観点から、調布市文化・コミュニティ振興財団と連携した各種取組を展開しました。

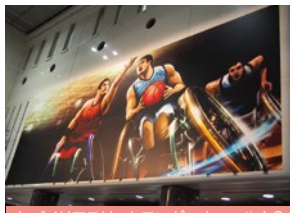
文化会館たづくりの床や壁面を利用し、市内開催競技やアスリートをアートで表現する「たづくりアスリートワンダーウォール!」のほか、地域の産業に触れながら、廃材・端材で創作活動を行う「クリエイティブリユースでアート!」、深大寺に縁の深い能楽をテーマに、舞台照明や字幕解説など新たな試みを加えた舞台公演や体験型の学習講座など様々な切り口から伝統芸能の普及と次世代への継承を目指した3か年事業「調布能楽 odyssey」など、地域の特色を生かしながら多彩な事業に取り組んできました。そのほか、競技会場となった東京スタジアム及び武蔵野の森総合スポーツプラザ周辺の街並みをレゴ®ブロックで模した作品等を展示した「ボクらのブリック!」展の開催や、芸術・文化を通じたシティプロモーションの一環として、外国人観光客をターゲットとした動画配信など、機を捉えた取組を展開しました。

調布市文化・コミュニティ振興財団の東京2020大会に関連した主な取組

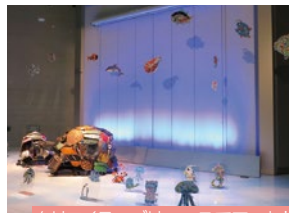




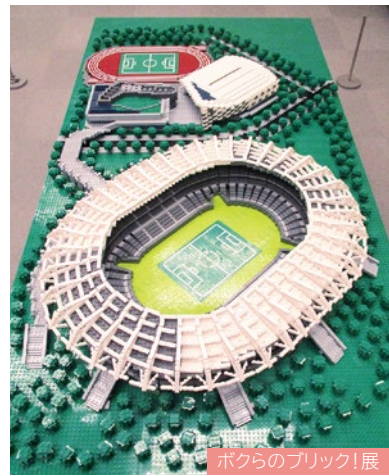
たづくりアスリートワンダーウォール! 1



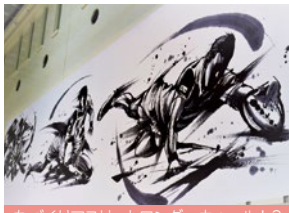
たづくりアスリートワンダーウォール! 2



クリエイティブリユースでアート!



ボクらのブリック!展



たづくりアスリートワンダーウォール! 3



たづくりアスリートワンダーウォール! 4



調布能楽 odyssey

2019年度

2020年度

2021年度

アスリートワンダーウォール! 3

ラグビーの「団結力」「突破力」「勝利」を表現した墨絵イラストで壁面をラッピング

アスリートワンダーウォール! 4

市内競技会場で開催される競技を多角形平面構成のイラストで表現

クリエイティブリユースでアート!

×富田菜摘「ものものいきもの展」

クリエイティブリユースでアート!

「おうちで作って、たづくりに送ろう! ~ちぎりで『海のものものいきもの』♪~」

クリエイティブリユースでアート!

×武藤亜希子 C+H+O+F+Uのかけら植物園

市内の幼稚園、学校、福祉施設等で実施

調布能楽 odyssey 破

能楽を現代アートで見せる美術展示「守破離」、若手能楽師らによる公演「狂言×ミライ×能」

調布能楽 odyssey 急

調布の歴史や文化を題材にした「新作能 月魄 - 深大寺蕎麦の能」

体験型事業、アウトリーチ事業等)

調布国際音楽祭・調布よさこい・調布市民文化祭

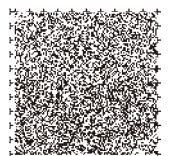
シティプロモーション動画の配信

ホストシティパフォーマンスイベントへの参加

市内のよさこい踊り手チームが出演し、よさこい踊りを披露(→ P.21)

調布・巡る・アートプロジェクト(→ P.78)

パラ劇場研修(→ P.78)



国際交流・国際理解促進の取組

調布市国際交流協会では、日本語教室等の外国人支援事業や、国際交流や国際理解につながる事業に取り組み、多文化共生の地域づくりを推進しています。東京2020大会に向けた取組として、外国人会員と交流しながら英語を学ぶ「調布でおもてなし～夏休み・小学生編、中学生編」を実施し、市内の競技会場までの道のりを実際に歩いて道案内を学ぶなど、実践的な内容を盛り込んだ事業を行ったほか、ホストタウンであるサウジアラビア王国応援企画として、サウジアラビア国歌を歌う様子を収録しました。※ホストタウン・サウジアラビア王国との交流については、第2章第4部ホストタウン(P.41～44)に記載

また、市は、相互友好協力協定を締結している東京外国語大学と連携し、留学生のインターンシップを市内児童館に受け入れ、出身国の文化紹介や各種レクリエーションを通じて、留学生及び子どもたちの異文化理解や国際交流の機会づくりを行いました。

加えて、多文化共生を推進する取組の一環として、多言語対応だけでなく、誰に対してもわかりやすく情報を伝えるツールである「やさしい日本語」の普及啓発を行っています。外国人はもとより、高齢者や障害者、子どもなどあらゆる人々にわかりやすく情報を伝える取組を研修や市の広報を通じて、今後も広く展開していきます。



外国人支援事業 (だっころっこらぶ)



国際交流事業 (ニューイヤーパーティー)



小・中学生おもてなしボランティア

平和祈念事業

市では、1983年9月27日に市議会による「調布市非核平和都市宣言」、1990年3月23日に市による「調布市国際交流平和都市宣言」を宣言しており、これらを踏まえ、様々な平和祈念事業に取り組んでいます。

市民の代表「ピースメッセンジャー」として戦争・平和に関する学びを深めた中学生が、様々なイベントで学んだことや平和への想いを広く発信しているほか、市内の子どもたちから“平和なまち”をテーマに絵を募集する絵画コンテストや被爆資料等を展示する「原爆展」の開催、戦争体験映像記録の制作、平和祈念の取組をまとめた情報誌「ピース・レターちょうふ」の発行など、幅広い年齢層の市民に平和について考える機会を提供しています。

また、市民団体や市内事業者との連携により、戦争・平和に関する映画の上映、演劇・朗読の上演など様々な手法により、より多くの市民の参加を得ることにつながりました。



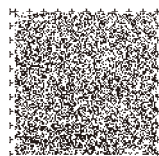
ピースメッセンジャーの活動



調布っ子“平和なまち”
絵画コンテスト

取組年表 (調布市の平和祈念事業)

時期	内容
1983年 9月	調布市議会による「調布市非核平和都市宣言」
1990年 3月	調布市による「調布市国際交流平和都市宣言」
2010年 8月	「平和市長会議 (現 平和首長会議)」加入
2015年 8月	市制施行60周年記念事業として広島平和派遣事業を実施
2019年	被爆地へのピースメッセンジャー派遣事業を開始
2020年	調布市国際交流平和都市宣言30周年
2021年 4月	「日本非核宣言自治体協議会」加入





障害を持つアーティストの自立をサポートしている、ファーストステップの名古屋理事長。
共生社会の充実に向けた取組についてお話を伺いました。



特定非営利活動法人
ファーストステップ
理事長・施設長
名古屋 ^{はじめ} 一 さん

Q 「東京2020大会」に向けて、これまでどのような取組を行ったかお聞かせください。

ファーストステップでは、絵を描くことが好きな人がそれを職業に変えていき、絵画の販売や似顔絵の制作など、アートを仕事にする支援をしています。そこで、ファーストステップで活動している障害のあるアーティストの皆さんが、オリンピック・パラリンピックに向けて始まった市の『パラアート展』へ参加しました。

ファーストステップのギャラリー兼カフェでもある「Pedalo」でもアーティストが描いた絵画を飾っているのですが、多くの方の目に触れる機会があまりなかったため、こういった展示が開催されたことで調布市民の目に触れ、障害者のアートを感じていただくきっかけになって良かったです。

また、パラアート展に行かれた方がたまたまお店にいらっしゃって、「これってパラアート展にあった作品ですよ？」と言って絵画を購入してくださったんです。そういった点でも、『パラアート展』は障害者アートの啓蒙活動として大きな役割を担っていると思います。

さらに極論を言うと、作品がきちんと評価されたら障害者であろうが健常者であろうが関係ないと思っています。障害者のアーティストが自分の作品で収入を得て、自分の足で生きていける。そこを私たちは目指してサポートしているので、“パラアート”は共生社会の一つのきっかけになっていると思います。

Q だれもが芸術文化に親しみ楽しめる環境づくりを行っていくために、今後調布市に必要なことをお聞かせください。

これまで以上に、“パラアート”が調布市民の目に触れる機会

を増やしていただけたらと思います。行政機関が障害者のアート作品をレンタルして様々なところに飾っていただき、そのレンタル料を障害者の方々の給料に変えていくという取組を行っている地域もあります。調布市もこのようなことをしていただけると、調布市民がいろんなところで“パラアート”に知らず知らずに触れられる。「あの絵、素敵だな」って、少しでも思っていたくだけで構わないので、そういう機会がどんどん増えてくれば嬉しいですし、共生社会の一助を担うのではないのでしょうか。

Q 今後の“パラアート”への取組をお聞かせください。

日常的に毎年パラアート展に出展できるような作品を作り続けていけたらと思っています。そしてぜひ「Pedalo」にも作品を鑑に来てください。もちろん絵を描くことが好きな障害者の方もお待ちしております。

また、パラアート展だけでなく、障害者関連のイベントが開催されたときに、ちょっと覗いてみようという気持ちになっていただけたら嬉しいです。

同時に、イノベーション福祉のため調布市の企業や商店街の方々、サークル活動をされている方など、異文化の人たちが一緒になって街を盛り上げていき、win-winになれる取組も行っていけたらと考えています。



Gallery & Cafe ^{ペダロ} Pedalo

東京都調布市染地3-1-946 TEL:042-426-4223
営業時間:月～金曜日 10:00～17:00
定休日:土曜日・日曜日・祝日



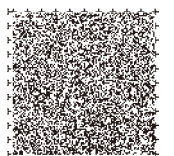
矢崎 達則 さん
国内をはじめ海外の絵画展でも入選



野崎 萌 さん ^{はじめ}
緻密なトラックを描くことが得意



廣嶋 優さん
ユーモア溢れる空や雲を描くことが好き



アクション&
レガシープラン 取組

5

教育・青少年の
健全育成

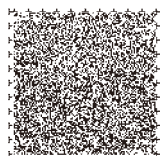
市立小・中学校で推進したオリンピック・パラリンピック教育による体験や交流活動を重視した学び、児童館による普及啓発事業等を通じて、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際理解を深めるとともに、児童・生徒の運動やスポーツへの関心や親しみを一層高め、青少年への健全な育成を図りました。

主なアクション

- 各校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組
 - ・ オリンピック・パラリンピック教育推進校
 - ・ アワード校、文化プログラム・学校連携事業、パラリンピック競技応援校
 - ・ 世界ともだちプロジェクト
 - ・ 学校連携観戦に替わるレガシーの取組
- 関係機関・団体等と連携した取組
 - ・ あすチャレ!スクールへの参加
 - ・ 車いすバスケットボール国際大会等の競技観戦の実施
 - ・ 調布市小学生タグラグビー大会の開催
 - ・ 市立中学生の東京駅伝大会への参加
 - ・ 走り方教室(調布市ジュニア陸上競技体験教室)の開催
 - ・ オリンピアン・パラリンピアンによる陸上出前授業の開催

創出するレガシー

- ボランティアマインドのさらなる醸成
- 共生社会の形成に向けた障害者理解の促進
- 多様性を尊重する心や豊かな国際感覚の醸成
- スポーツへの関心や親しみの醸成



調布市立学校における オリンピック・パラリンピック教育の取組

調布市オリンピック・パラリンピック教育の概要

調布市教育委員会教育目標

～調布市が目指す子ども像～

- (1) 命の大切さを自覚し、人の尊厳を重んじ、互いのよさや違いを認め合うことのできる力を身に付けた子ども。
- (2) 豊かな心、健やかな体を基盤に、確かな学力に基づいた「生きる力」を身に付けた子ども。
- (3) 自ら社会貢献しようとする意欲をはぐくみ、社会的に自立するための基礎となる力を身に付けた子ども。

調布市におけるオリンピック・パラリンピック教育のねらい

～育成したい子ども像～

- (1) 子どもたちの自己実現を促し、これからの共生社会や国際社会を担う資質・能力を育てる。
- (2) 日本人としての自覚と誇りを身に付け、日本のよさを世界へ示す意欲と力を育てる。
- (3) スポーツや文化が平和な社会の実現と持続可能な社会づくりに貢献できることを理解し、進んで社会貢献する力を育てる。

4つのテーマ



4つのアクション



育成したい5つの資質

ボランティアマインド

社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心

障害者理解

障害の有無にかかわらず、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく力

スポーツ志向

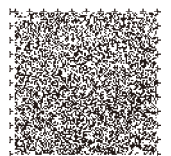
フェアプレーやチームワークの精神と、自ら健康づくりに意欲的に取り組む態度

日本人としての自覚と誇り

礼節を重んじ、他者を思いやり、マナーを守り、助け合って生活する態度

豊かな国際感覚

世界の多様性を理解し、世界各国の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度



育成したい5つの資質における調布市立学校の取組

ボランティアマインド

「ボランティアダンス部の活動」(第五中学校 2019年度実施)

「大江戸ダンス」を地域のお祭り・運動会や高齢者福祉施設等で演舞するとともに、青少年赤十字メンバーとしてハンドケアマッサージを習得し高齢者の方を中心に施術しました。

これらの活動を通して、地域の高齢者を元気づけ、地域活動を活性化させるとともに、学校と地域のより良い関係づくりに貢献しました。「気づき、働く」ボランティア精神を発揮し、校内でも清掃活動等に積極的に取り組みました。



障害者理解



「知ろう。わかろう。体験しよう。オリンピック・パラリンピック」

(第八中学校 2019年度実施)

オリンピック・パラリンピック教育講演会として、NPO 法人パラキャンから6名の車いすバスケットボールの選手をお招きしました。競技の話だけでなく、車いす生活の苦労や周りの支えの大切さなども話していただきました。生徒や教員を交えての実体験もでき、パラリンピックや車いすバスケットボールへの興味・関心が深まっただけでなく、共生社会を生きるための障害者理解にもつながる貴重な機会となりました。

スポーツ志向

「スポーツに親しみ、一歩進む+1(プラス・ワン)」(若葉小学校 2020年度実施)

3大会連続でオリンピックに出場し、400mハードル日本記録保持者の為末氏をお迎えし、全学年及び希望する保護者が「ハードルを越える」と題した講演を聴講し、夢に向かうことの大切さを感じ、オリンピックへの興味・関心を高めました。

また、4年生が為末氏の実技演習を通して、オリンピックの実力を体感し、オリンピックを身近に感じる機会となりました。



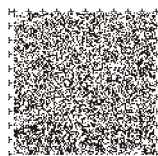
日本人としての自覚と誇り



「日本の伝統的な衣装を着てみよう(浴衣着付け体験)」

(第四中学校 2020年度実施)

カリキュラムマネジメントの視点で家庭科の生活文化についての学習で浴衣の着付け体験を実施しました。「将来我が国の伝統文化を世界の人々に伝えることができること」を目標に、襟のそろえ方や帯紐の結び方、畳み方や浴衣を着用した状態での礼儀作法等を一生懸命学ぶことができました。



豊かな国際感覚

「観る」「する」から「支える」へ（緑ヶ丘小学校 2010年度実施）

サモア独立国の大使館の方との交流を行いました。5年生が大使館の方へ日本文化を英語で伝えました。大使館の方からはサモア独立国の紹介をしていただき、児童は文化の違いに驚いていました。また、給食ではサプスイ（サモア風やきそば）、スアファイ（バナナとタピオカのデザート）などサモア独立国の特徴的な料理を食べました。この活動を通して、様々な文化を体験し、異文化理解を深めることができました。



【学校給食に関する取組】

「伝えよう世界の食文化 給食で食べたい私が調べた世界の料理」をテーマとした料理コンテストの実施など、給食を通して世界の食文化を学び、国際理解や日本の風土・食文化への理解を深める取組を実施しました。

2019年度に給食大賞を受賞した宮崎県の郷土料理「冷汁」を取り入れた献立



学校連携観戦に替わる取組

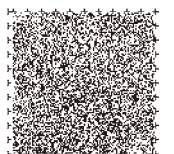
学校連携観戦に替わる取組（2021年度）



子どもたち一人一人に人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残していくことを目的に、市立小・中学校の全児童・生徒が東京2020大会を直接観戦する学校連携観戦を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。そのため学校連携観戦に替わる取組として、各学校で様々な取組を実施しました。子どもたちが描いたオリパラ観戦日記を校内の廊下に掲示したり、アサガオの鉢にアスリートへの応援メッセージをつけたり、東京2020大会参画関連事業の「みんなの声をアスリートに届けよう！」へ応援メッセージ動画を投稿するなど、子どもたち一人一人の心と体に残る取組を行いました。

【学校での主な取組】

- オリパラロードの設置
(子どもが作成した作品を廊下壁面に掲示し、全校児童で鑑賞する)
- オリンピックについての新聞作成
- 東京2020大会参画関連事業「みんなの声をアスリートに届けよう！」へ動画を投稿
- フラワーレーンプロジェクト
(アスリートへの応援メッセージを朝顔の鉢につけ応援する)
- 日本メダル獲得観戦プロジェクト
(みんなで選んだ種目をテレビ観戦し、感想と後世に伝えたいことを書く)



関係機関・団体等と連携した取組

あすチャレ!スクール(2021年度)

公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンターによる「あすチャレ!スクール」を市内小・中学校で実施しました。パラアスリートのハイパフォーマンスを生で見たり、体験したり、講話を聞いたりすることで「他者のことを自分事として考える心」「障害への理解」「可能性に挑戦する勇気」「『夢』や『目標』をもつこと」について学びました。また、障害に対する意識の転換を図るとともに、「応援」することにも着目し、「応援」の意義、効果、力を実感しました。



車いすバスケットボール観戦(2018~2019年度)



武蔵野の森総合スポーツプラザにおいて開催された「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2018・2019」の車いすバスケットボール国際大会で市内の小・中学生が応援・観戦を行いました。車いすバスケットボールを直接観戦することにより、日本代表の迫力あるプレー、熱量を肌で感じることができました。また、障害者理解がより深まり、多様性を尊重する心や豊かな国際感覚の醸成につながりました。

タグラグビー大会(2016~2021年度)

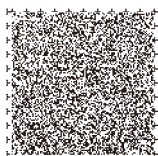
ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック競技大会の7人制ラグビーの開催に向け、青少年の健全育成を推進することや、ラグビー競技に対する地域社会の理解を醸成することを目的として開催しました。小学生を対象とした大会で、どのチームも日頃の練習成果を発揮すべく、みんな一生懸命にプレーをしていました。勝っても負けても大会を楽しむ子どもたちの姿にタグラグビーの人気を感じ取ることができました。



市立中学生の東京駅伝大会(2009~2020年度)



アミノバイタルフィールド、都立武蔵野の森公園特設周回コースで、東京都内の合計50チームが参加した市区町代表の中学生2年生による駅伝競走が行われました。調布市立中学校及び私立中学校の代表で結成された調布選抜チームは、拓殖大学陸上競技部及び調布市体育協会の協力をいただいて練習に励み、2018年度では総合11位になることができました。



走り方教室（調布市ジュニア陸上競技体験教室）（2019～2021年度）

小・中学生を対象として、陸上競技に精通した指導者による「走り方」の指導を行いました。スポーツへの関心を高めるとともに、体力向上を図ることを目的に、正しいフォームでの走り方や速く走るための動き方、コツなどを学びました。指導後は、走り方の姿勢が改善され、以前より速く走れるようになって子どもたちは喜んでいました。



オリンピック・パラリンピアンによる陸上出前授業（2021年度）



ゆめおり陸上クラブ※のアスリートに学校に訪問していただき、ハードル走や走り幅跳び、走り高跳びなど様々な競技の指導をしていただきました。子どもたちは、日本を代表するアスリートからの指導を集中して聞き、少しでも習得しようと必死になって取り組んでいました。全力で楽しみながらも努力する大切さを学びました。

※ゆめおり陸上クラブ

世界陸上競技連盟の日本におけるコーチ教育団体「日本キッズアスレティックス協会」認定の陸上クラブ。オリンピックをはじめとする経験豊富なスタッフが指導します。



オリンピック・パラリンピック教育の推進に力を入れている、調布市立第四中学校の生野校長に、どのような取組を行っているのかについてお話を伺いました。



調布市立第四中学校 校長
生野 まゆみ さん

育成すべき5つの資質を念頭にオリ・パラ教育へ取り組む

- ①ボランティアマインド
- ②障害者理解
- ③スポーツ志向
- ④日本人としての自覚と誇り
- ⑤豊かな国際感覚

の5つの柱に沿って取組を行いました。残念ながらコロナ禍で学校連携観戦は中止となりましたが、車いす陸上のパラアスリート・永尾嘉章さんをお招きした『あすチャレ!スクール』では、実際に車いすに乗ってパラスポーツを体験したりお話を聞いたりして、障害者理解を深め多様性を尊重する貴重な機会となりました。次回も募集があれば、応募したいと思っています。

また、東京都国際交流コンシェルジュを介して、トルコ大使館の方に自国の生活や文化について、対面でお話いただいたことも、国際感覚を醸成するための良い取組となりました。

オリ・パラ教育の新たな視点が教育活動の点と点を結ぶ架け橋に

オリ・パラ教育の理念は、学校教育の目標に通ずるものだと強く感じました。そして、各教科の学習をオリ・パラ教育として関連付けることで、多面的・多角的な学びの実現となり、学習がさらに深まることに繋がりました。だからこそ、東京2020レガシーを大変価値のあるものと捉えています。今後は、SDGsの視点で生徒会による取組を行ったり、1人に1台コンピューターと高速ネットワークを整備するGIGAスクール構想に合わせて、オンラインで他国の子どもたちと交流したりできたらと思っています。

児童・生徒の皆さんには学校で学んだことを礎に、世界平和に進んで貢献できる人になってくれることを期待しています。教職員の皆様には、オリ・パラ教育を通して蓄積した学習活動のノウハウを今後の教育に生かし、引き続き子どもたちの成長にご尽力をお願いいたします。



総括（レガシー）

総括

市は、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に、まちづくりへ多面的効果をもたらす有形・無形のレガシー創出のため、ソフト・ハード両面での取組を展開してきました。

ラグビーワールドカップ2019では、東京スタジアムで開会式、開幕戦を含む8試合が行われるとともに、調布駅前広場周辺ではファンゾーンが開催され、国内外から多くの方々が調布市を訪れました。これらのことは、多くの市民の記憶に刻まれ、スポーツに対する関心や期待感が高まり、翌年に予定されていた東京2020大会に向けた機運の醸成につながりました。併せて、市内のバリアフリー化、Wi-Fi環境整備、サインの多言語化なども進んだことで、東京2020大会開催に向けたハード面の準備も整いました。

東京2020大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、史上初の1年延期となり、また、緊急事態宣言が発出される中、多くの会場において無観客開催となるなど、これまでに経験のない困難な状況下での開催となりました。そうした中で、すべてのアスリートが自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は、全市民、とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動、そして夢と

希望を与えてくれたものと確信しています。さらには、調布市応援アスリートで、元調布市職員の山崎悠麻選手がパラリンピックのバドミントン女子ダブルス（車いす）において、金メダルを獲得したことは、市民にとって大きな喜びとなりました。

一方、大会に関連して計画した様々な取組は変更・縮小・中止にせざるを得ない状況もありましたが、大会の機運醸成やレガシー創出に向けて取組を進めてきました。とりわけ、大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し、共生社会の重要性を市内外に発信する取組については、「パラハートちょうふ〜つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」をキャッチフレーズに様々な取組を進めました。

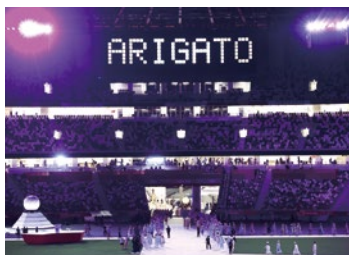
こうした大会を契機とした取組の推進に当たっては、多くの市民の参画をはじめ、他自治体、地域のプロスポーツチームや競技団体など多様な主体との連携・協働による「オール調布」で進めてきました。今後は、これまでに構築した様々なパートナーシップを市政の様々な分野で生かしていくとともに、ソフト・ハード両面にわたる取組を一過性のものとせず、大会のレガシーとして継承・発展させ、次代のまちづくりにつなげていきます。



写真：BELGA/共同通信イメージ



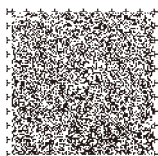
©PHOTO KISHIMOTO



写真：共同通信社



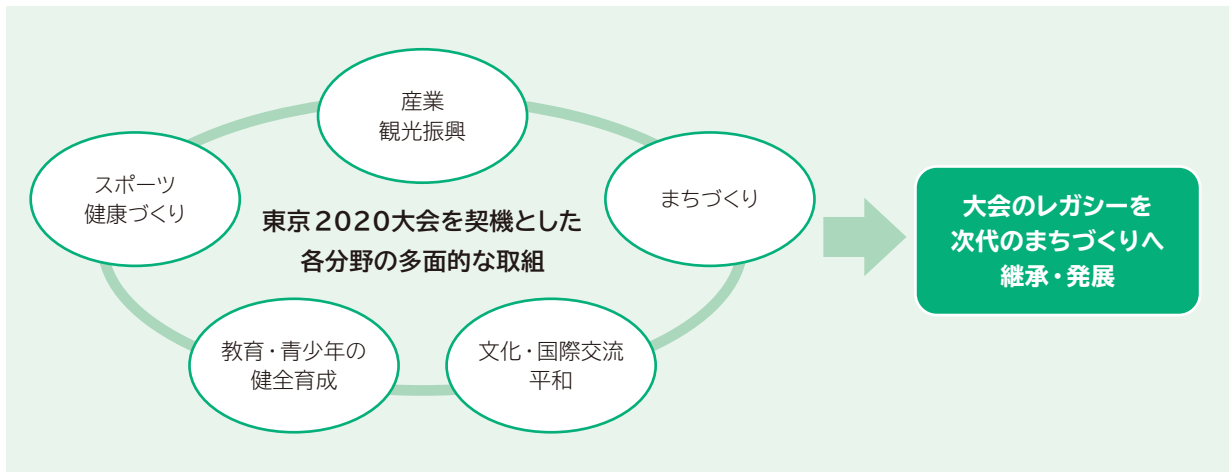
写真：共同通信社



各分野での取組

ラグビーワールドカップ 2019、東京2020大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に、大会の準備段階から開催後にわたり長期的・継続的に享受できる有形・無形のレガシーを創出するため、調布市アクション&レガシープランに掲げた5つ

のテーマに基づく取組を展開しました。大会に向けたソフト・ハード両面にわたる取組を、調布のまちづくりのレガシーとして継承・発展させ、市民の豊かな生活につなげていきます。



ラグビーワールドカップ 2019™日本大会を契機としたまちづくりの進展

東京スタジアムで開会式、開幕戦を含む8試合が行われ、約38万人が来場しました。また、調布駅前広場周辺で開催されたファンゾーン（東京都主催）には、16日間で約13万人が来場しました。大会に向けて、市内各所のバリアフリー化やWi-Fi環境整備、さらには多くの外国人観光客やアスリートの受入れを見据えたサインの多言語化など、都市基盤の整備を推進しました。また、おもてなしの環境づくりとして、市民参加による花いっぱい運動の展開や大会ロゴをデザインしたマンホール蓋の設置

などを進めました。さらには、ラグビー関連イベントの開催をはじめ、様々な機会を捉えて市民の大会への参加機会を創出しました。

また、大会後においては、東芝プレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、調布市、府中市、三鷹市の5者による連携協定を締結し、ラグビーを通じたスポーツ振興をはじめ、地域経済の活性化、青少年の健全育成等、多岐に渡る分野でまちづくりに還元できるよう取組を進めています。



ラグビー日本代表が得点した時にファンが歓喜している様子



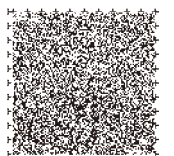
ファンゾーンでパブリックビューイングを待つ家族



ラグビー日本代表が勝利した瞬間の歓喜（グリーンホール）



調布駅前のファンゾーン（写真は大会マスコットレンジー）



共生社会の充実

大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し、共生社会の重要性を市内外に発信する取組として「パラハートちょうふ〜つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」を独自のキャッチフレーズとして掲げ、パラアート展、障害者スポーツ体験会、市内のスポーツ・福祉分野における関係団体による協議体の設置など、心のバリアフリーの推進や障害に対する理解の促進に向けた取組を進めました。ハード面では、だれもが円滑に移動できる交通環境の整備や、競技会場周辺・スポーツ施

設等の公共施設に加え、市内商店も含めたバリアフリー化の推進、多言語化を含む公共サインの整備といったユニバーサルデザインのまちづくりを推進しました。

このように、大会を契機として、障害理解や障害者スポーツの振興、バリアフリー化など、障害者、高齢者、外国人などだれもが安心・快適に暮らせるユニバーサルデザインのまちづくりが進展しました。こうした取組を、次代のまちづくりへ継承し、共生社会の更なる充実に向けて発展させていきます。



スタジアム通りの無電柱化



公共サインの整備



ふれあい商店補助事業



障害者スポーツ体験会

パラハートちょうふ

つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち



パラハートちょうふ
アートデザイン



パラアート展2021制作風景

参加機会の創出

各種イベントでの競技体験や各小・中学校でのオリンピック・パラリンピック教育、市独自のおもてなしボランティアなど、様々な形で、子どもたちをはじめとした多くの市民に、トップアスリートとの交流や、大会等への参加機会を創出してきました。

特に、競技会場の所在市として、市内で開催された東京2020テストイベントや車いすバスケットボールの国際大会等の機会を捉え、多くの市民が各国の代表選手との交流や競技を観戦できる機会の創出、市内高校生のボランティア参加などの取組を実施しました。

そのほか、パラリンピック聖火採火式や聖火ビジットなどの聖火リレー関連イベント、調布市応援アスリートへの応援企画など、市民の皆さまが参加できる機会の創出に向けた取組を推進しました。

こうした中で、アスリートとの交流等を通して得た気づきや学びは、子どもたちをはじめ多くの市民にとってかけがえのないものです。こうした記憶をレガシーとして次代に継承していくとともに、スポーツへの親しみや、国際交流、障害理解、ボランティアマインドの育成などの取組を継続・発展させていきます。



学校でのオリンピックとの交流



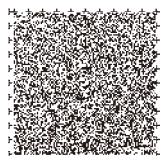
おもてなしボランティア



車いすバスケットボール選手との交流



パラリンピック聖火リレー
聖火ビジット



多様な主体との連携

行政と市議会、市内関係団体が一丸となり、「オール調布」の視点に立った取組を進められるよう、「調布市2019-2020プロジェクト全体会議」を設置し、大会関連情報等の共有を図ってきました。また、自治体間の広域連携はもとより、地域のプロスポーツチームや競技団体などとも連携し、様々な取組を展開しました。こうした取組

を通じて、多様な主体の参画を得るとともに、パートナーシップを構築・発展させました。今後は、このパートナーシップをスポーツ・健康づくり、産業・観光振興、まちづくり、文化・国際交流・平和、教育・青少年の健全育成など、市における各施策の推進に還元していきます。



2019-2020プロジェクト全体会議



東京都市町村ポッチャ大会



日本車いすバスケットボール連盟との連携協定



府中・調布・三鷹ラグビーフェスティバル



ラグビー5者連携協定

大会の記憶の継承

市は、ラグビーワールドカップ、オリンピック、パラリンピックという世界最大級の3つのスポーツイベントが行われた国内唯一の基礎自治体です。こうした大会のかけがえない感動と記憶を次代にレガシーとして引き継いでいきます。

なお、東京2020大会において競技会場となった東京

スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザ、武蔵野の森公園を含むエリアについては、大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク※」と名付けられ、大会の感動と記憶を後世に永く伝えられることとなります。

主な取組

- 東京2020大会の記憶を語り継ぐレガシー銘板の設置
- パラリンピックのレガシーとして大会マスコット像(ソメイティ)の存置
- ラグビーワールドカップのレガシーとして大会ロゴによるデザインマンホールや大会マスコット像(レンジャー)の存置
- 大会の記念品や記録等を保存し、未来へ継承



東京2020
パラリンピック
公式マスコット
「ソメイティ」

武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク※



都立武蔵野の森公園

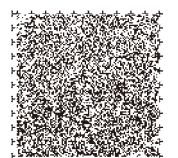


武蔵野の森総合スポーツプラザ



東京スタジアム

※2022年3月現在において、東京都は仮称として公表しています



大会を契機としたレガシー創出に向けた取組の展開

[有形・無形のレガシー創出に向けた多面的な取組]

2020年に向けた調布市の取組方針

調布市アクション&レガシープラン

5つのテーマによる取組の展開

スポーツ・健康づくり

- スポーツに親しむ機会の創出
- 障害者スポーツの振興
- ラグビー競技の普及に関する取組など

産業・観光振興

- にぎわい創出に関する取組
- Wi-Fi 環境整備の推進
- 多言語対応などのインバウンド対策など

まちづくり

- 競技会場周辺の環境づくり
- 公共施設等のバリアフリー化
- ゼロカーボンシティ宣言など

文化・国際交流・平和

- 芸術文化の振興
- ホストタウン・サウジアラビア交流
- 平和・人権に関する取組など

教育・青少年の健全育成

- オリンピック・パラリンピック教育の推進
- あすチャレ!スクール
- 車いすバスケットボール観戦など

参加機会の創出

- テストイベントへの参加・観戦機会の確保
- 応援アスリート・市内開催競技の応援
- パラリンピック聖火フェスティバル
- おもてなしボランティアの活動



多様な主体との連携

- プロスポーツチーム・競技団体等との連携
- 他自治体との連携（東京都市町村ボッチャ大会、府中・調布・三鷹ラグビーフェスティバル）
- 商工会等との連携（市全域のシティドレッシング展開等）



[パラリンピックレガシーの創出に向けた取組]

調布市基本計画

【障害の有無にかかわらず、子どもから高齢者まで、だれもが暮らしやすいまちづくり】

共生社会の充実にに向けた取組

パラハートちょうふ

つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち

(ソフト面)

心のバリアフリー推進 様々な障害に対する理解の推進

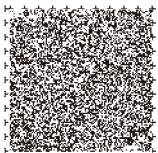
- 障害者スポーツの推進
- 障害理解の促進
- オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成



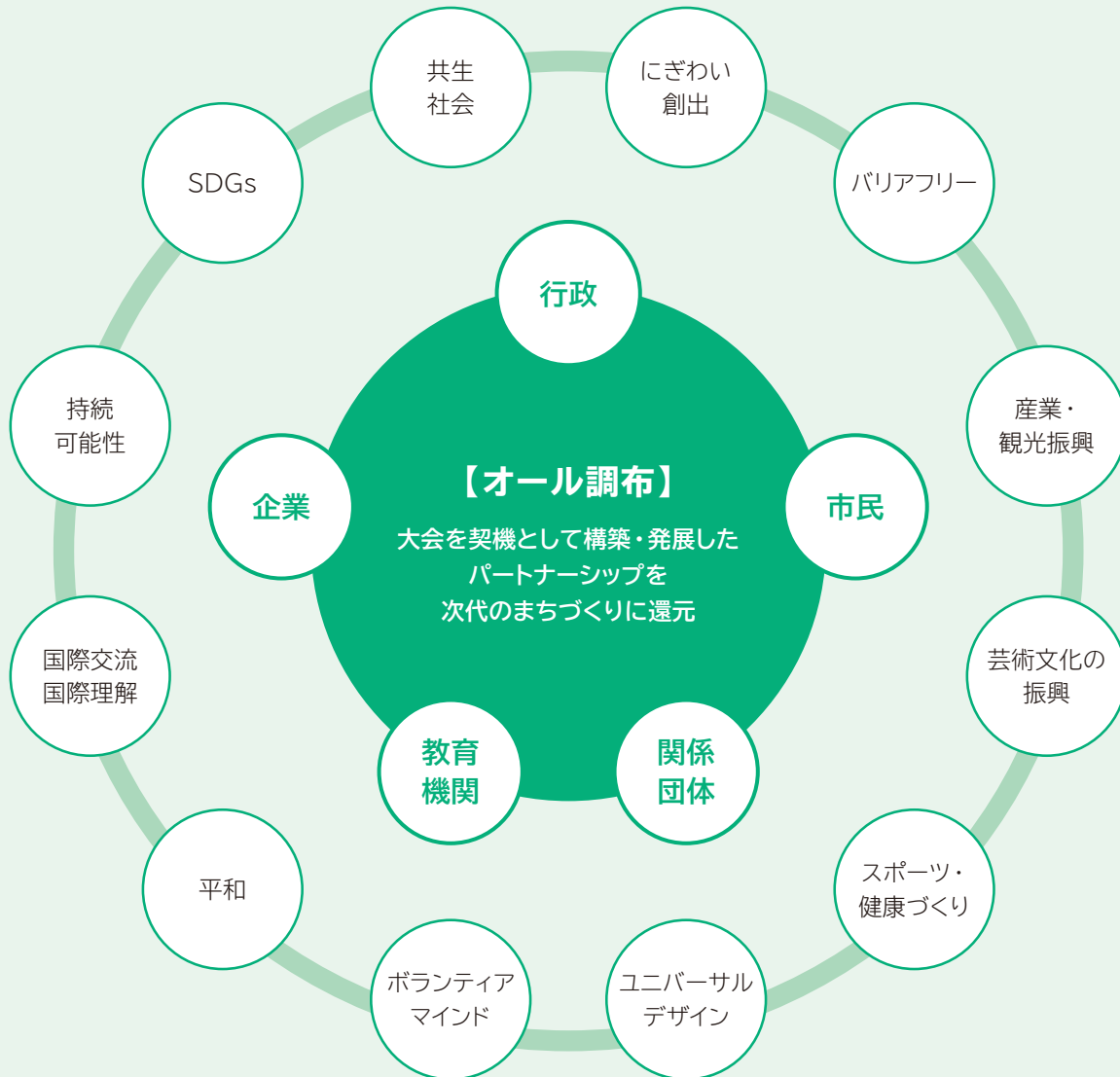
(ハード面)

ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

- 移動の円滑化の推進
- バリアフリー化の推進
- 多言語化を含む公共サインの整備



大会のレガシーを継承・発展させ、次代のまちづくりへつなげていく



【大会の感動と記憶を後世に伝えていく】

武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク※



都立武蔵野の森公園



武蔵野の森総合スポーツプラザ

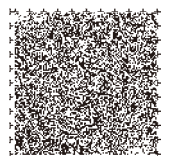


東京スタジアム

レガシー銘板

大会マスコット像

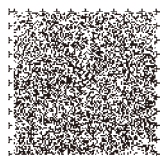
大会の記念品や記録等



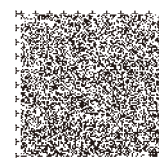
※2022年3月現在において、東京都は仮称として公表しています

東京2020大会までの道のり

- 2009年** 7月 ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会開催決定、15年イングランド（英国）大会と同時決定
- 2011年** 3月 東日本大震災
- 7月 東京都が2020年オリンピック・パラリンピック招致を表明
- 2012年** 8月 京王線調布駅付近連続立体交差事業により、調布駅・布田駅・国領駅が地下化
- 2013年** 9月 国際オリンピック委員会総会で2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市が東京に決定
第68回国民体育大会（スポーツ祭東京2013）が開催
- 2014年** 1月 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が発足。森喜朗氏が会長、武藤敏郎氏が事務総長に就任
- 2015年** 9月 イングランド（英国）で開催されたラグビーワールドカップ2015で日本が強豪南アフリカを破る快挙
ラグビーワールドカップ2019の試合会場の一つであった新国立競技場が使用できなくなったことに伴い、会場が変更
市内の東京スタジアムでの開催が決定
- 10月 スポーツ庁発足。鈴木大地氏が初代長官
- 11月 IPC 理事会において、車いすバスケットボールが市内の武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されることが決定
東京都オリンピック・パラリンピック連絡協議会が発足（調布市が初代幹事長市）
市制施行60周年記念式典を開催
- 2016年** 1月 東京2020大会に向け、サウジアラビア王国のホストタウンとして登録
- 4月 調布市オリンピック・パラリンピック担当が発足 大会エンブレムが野老朝雄氏の「組市松紋」に決定
- 7月 「2020年に向けた調布市の取組方針」策定
大会4年前イベント「東京2020オリンピック・パラリンピックまであと4年!!」の開催
- 8月 リオデジャネイロ夏季オリンピック（8月5日～8月21日）
- 9月 リオデジャネイロ夏季パラリンピック（9月7日～9月18日）
- 2017年** 3月 「調布市アクション&レガシープラン」の策定
- 4月 フラッグ歓迎セレモニー
- 7月 大会3年前イベント「調布サマーフェスティバル2017」の開催
- 9月 調布駅前の複合商業施設「トリエ京王調布」がオープン
- 11月 武蔵野の森総合スポーツプラザがオープン。パラバドミントン「山崎 悠麻」選手を第1弾調布市応援アスリートに認定
- 2018年** 2月 IOC 理事会において、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースの会場変更が決定
（スタート：都立武蔵野の森公園、ゴール：富士スピードウェイ）
東京2020オリンピック・パラリンピックのマスコットがミライトワとソメイティに決定
平昌冬季オリンピック（2月9日～2月25日）
- 3月 平昌冬季パラリンピック（3月9日～3月18日）
- 5月 卓球「森蘭 政崇」選手を第2弾調布市応援アスリートに認定
- 6月 三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2018に向けた
男子車いすバスケットボールドイツ代表及び日本代表の事前キャンプ受入れ
- 7月 大会2年前イベント「調布サマーフェスティバル2018」の開催
サッカー「平川 怜」選手を第3弾調布市応援アスリートに認定
- 8月 東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのコースが決定（調布市を通過することが決定）
- 10月 調布市2019-2020プロジェクトの立ち上げ。第1回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催
- 12月 バドミントン「桃田 賢斗」選手を第4弾調布市応援アスリートに認定
- 2019年** 1月 調布市おもてなしボランティア募集開始（1月21日～3月29日）
- 2月 第2回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催
- 3月 東京2020オリンピックスポーツピクトグラムが決定
- 4月 東京都が「東京2020ライブサイト等基本計画」を公表。「都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場」として、
パラリンピック期間中に調布駅前広場周辺でパブリックビューイングイベントが実施されることが決定
東京2020パラリンピックスポーツピクトグラムが決定
- 5月 第3回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催
- 6月 東京2020テストイベント「UIPM2019近代五種ワールドカップファイナル東京大会」が開催
- 7月 東京2020オリンピック自転車ロードレース都内通過自治体合同会見（自転車ロードレース通過8市PR映像公表）
東京2020テストイベント「READY STEADY TOKYO- 自転車競技（ロード）」が開催
東京2020テストイベント「ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2019 バドミントン選手権大会」が開催
大会1年前イベント「調布サマーフェスティバル2019」の開催
パラローイング「有安 諒平」選手を第5弾調布市応援アスリートに認定
- 8月 第4回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催。パラ水泳「松田 天空」選手を第6弾調布市応援アスリートに認定
日本車いすバスケットボール連盟との相互協力に関する協定締結
三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2019に向けた男子車いすバスケットボール韓国代表
及び日本代表の事前キャンプ受入れ
- 9月 調布市オリンピック・パラリンピック担当公式 Twitter アカウント運用開始
ラグビーワールドカップ2019日本大会開催。市内の東京スタジアムで開会式・開幕戦含む8試合が開催され、
380,502人が来場。日本は史上初ベスト8に進出、南アフリカ3度目の優勝



- 2019年** 9月 調布駅前で開催されたファンゾーンには、131,900人が来場
- 12月 オリンピック聖火リレーの詳細ルートが決定
オリンピック聖火リレーにおいて調布リトルリーグ・リトルシニアがクール・ブランナーとして都内を走行することが決定
- 2020年** 1月 日本国内で初めて新型コロナウイルス感染を確認
「パラハートちょうふ〜つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」のキャッチフレーズを決定
- 2月 第5回調布市2019-2020プロジェクト全体会議が新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- 3月 オリンピック聖火がギリシャから日本へ到着。東京2020大会の1年程度の延期が決定・新日程が公表
- 4月 政府が東京都を含む7都府県に緊急事態宣言を发出
- 7月 オリンピックの新たな競技スケジュール・会場が公表
- 8月 パラリンピックの新たな競技スケジュール・会場が公表
- 9月 東京2020大会に向けた300日前イベント（市庁舎パネル展示）（9月24日～10月30日）
- 11月 日本郵便株式会社と連携して作成したホストタウンフレーム切手の贈呈式を実施
- 2021年** 1月 政府が東京都など1都3県に緊急事態宣言（2回目）を发出
東京2020大会200日前に関する取組（200 Days to Go!）（1月4日～2月5日）
- 2月 組織委員会の森会長が辞任、新会長に橋本聖子氏が就任
- 3月 組織委員会・政府・東京都・IOC・IPC が海外からの観客受け入れを断念することで合意
オリンピック聖火リレーが福島県からグランドスタート
パラリンピック聖火リレーで調布市を含む都内の通過区市町村が決定
- 4月 政府が東京都など10都道府県に緊急事態宣言（3回目）を发出
東京2020大会100日前に関する取組（100 Days to Go!）（4月14日～5月16日）
東京2020オリンピック7人制ラグビーの運営テストが東京スタジアムで実施
東芝プレイブルーパス、サントリーサンゴリアス及び府中市、調布市、三鷹市との5者連携協定の締結
- 5月 パラリンピック聖火リレーの詳細ルートが決定
- 6月 東京都が、代々木公園のライブサイトをワクチン接種会場に転用することを発表
サッカー「相馬勇紀」選手を第7弾調布市応援アスリートに認定
東京2020大会50日前に関する取組（50 Days to Go!）（6月3日～7月5日）
調布市がコミュニティライブサイトの中止を決定・公表
東京都がライブサイト等の実施方法について抜本的見直しを発表
調布市を含むコース通過8市による自転車競技ロードレース都内コース体験イベント、「東京8市 Smile Road Project」が開催
島しょ部を除く都内全域でオリンピック聖火リレーの公道走行中止が決定
東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ展示
- 7月 政府が東京都、神奈川県に緊急事態宣言を发出（4回目）
組織委員会・政府・東京都・IOC・IPC が1都3県のオリンピック競技会場での無観客開催を決定
東京2020オリンピック聖火リレー点火セレモニーの開催（武蔵野陸上競技場）
東京2020オリンピック競技大会開幕（7月23日～8月8日）
東京2020オリンピック自転車競技ロードレース（男女）が2日間にわたり開催。市内の都立武蔵野の森公園をスタート
コミュニティライブサイトの代替イベントとして、オンライントークイベントを実施（サッカー、バドミントン、ラグビー）
調布市、岩手県大槌町、愛媛県新居浜市の連携によりサウジアラビア応援 DAY をオンラインで開催
第6回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催（書面開催）
東京2020オリンピック開催。過去最多と並ぶ205の国・地域と難民選手団合わせて選手約11,000人が参加
日本選手団が2016年リオ大会の総メダル数41個を上回る過去最多の58個を獲得
- 8月 都内全域でパラリンピック聖火リレーの公道走行中止が決定
東京2020パラリンピック聖火リレーに向け、深大寺の護摩祈願の火から「調布市の火」を採火
都内集火式へ持ち込み、「東京都の火」が生まれる。その後、東京都の火を持ち帰り、市内18か所で聖火ビジットを実施
東京2020パラリンピック聖火リレー点火セレモニーの開催（都立砧公園）
東京2020パラリンピック聖火リレー都内到着式にFC東京あおぞらサッカースクール in 調布がグルーブランナーとして参加
パラリンピックをテーマにしたオンライントークイベントを実施
東京2020パラリンピック競技大会開幕（8月24日～9月5日）
東京2020パラリンピック開催。リオ大会を上回る162の国・地域と難民選手団
合わせて選手約4,400人が参加（選手数過去最多）
過去2番目の総メダル数51個を日本選手団が獲得（過去最多は2004年アテネ大会の52個）
- 9月 東京2020大会報告会を実施（山崎悠麻選手、有安諒平選手）
- 2022年** 3月 「スポーツ×共生社会」シンポジウムの開催
第7回調布市2019-2020プロジェクト全体会議の開催（書面開催）
東京2020大会調布市報告書の公表
東京2020大会レガシー銘板の設置



2019-2020プロジェクトメンバー 一覧

全体会議メンバー (2021年12月1日現在)

調布市長	長友 貴樹	上布田商栄会	会長	田中 和己
調布市副市長	伊藤 栄敏	天神通り商店会	会長	土田 衛
調布市副市長	黒岩 幸三	小島商栄会	会長	比留間 俊文
調布市教育委員会教育長	大和田 正治	調布銀座商栄会協同組合	理事長	松澤 和昌
調布市議会議長	小林 市之	多摩川商栄会	会長	高橋 勲
調布市議会副議長	丸田 絵美	下石原商店会	会長	山賀 重和
調布市議会議員	平野 充	西調布一番街	会長	串田 木工弥
調布市議会議員	木下 安子	西調布振興会	会長	齊藤 純一
調布市議会議員	坂内 淳	飛田給駅南口商店会	会長	箕輪 勝弘
調布市議会議員	古川 陽菜	富士見町商店会	会長	白井 貞治
調布市議会議員	阿部 草太	深大寺そば組合	会長	児玉 孝之
調布市議会議員	西谷 徹	調布駅前から盛り上げる会	会長	田中 和己
調布市議会議員	澤井 慧	京王電鉄株式会社京王中央管区	管区長	小宮山 一成
調布市議会議員	大野 祐司	京王バス株式会社調布営業所	所長	今野 修明
調布市議会議員	須山 妙子	小田急バス株式会社狛江営業所	所長	古谷 弘文
調布市議会議員	内藤 美貴子	警視庁調布警察署	署長	佐々木 祐二
調布市議会議員	榊原 登志子	東京消防庁調布消防署	署長	中原 毅
調布市議会議員	岸本 直子	調布市消防団	団長	小津 浩彦
調布市議会議員	清水 仁恵	調布警察署管内コンビニエンスストア防犯協力会	代表	野口 直紀
調布市議会議員	井上 耕志	調布交通安全協会	会長	大槻 智子
調布市議会議員	狩野 明彦	調布地区防犯協会	会長	荻本 貞臣
調布市議会議員	鈴木 宗貴	東京都多摩府中保健所	所長	田原 なるみ
調布市議会議員	渡辺 進二郎	自治会連合協議会	会長	有原 成夫
調布市議会議員	橘 正俊	石原小学校地区協議会(石原小学校区)	副代表	二宮 喜恵子
調布市議会議員	雨宮 幸男	第三小学校地区まちづくり協議会(第三小学校区)	会長	高橋 一明
調布市議会議員	武藤 千里	緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会(緑ヶ丘小学校区)	会長	田中 次郎
調布市議会議員	宮本 和実	飛田給小学校地区協議会(飛田給小学校区)	会長	小池 政人
調布市議会議員	川畑 英樹	上ノ原まちづくりの会(上ノ原小学校区)	会長	吉見 政子
調布市議会議員	伊藤 学	八雲台小学校地区協議会(八雲台小学校区)	会長	添田 光威
調布市議会議員	大須賀 浩裕	こくりょう・みんなの広場(国領小学校区)	会長	宇治 和子
調布市議会議員	元木 勇	若葉学校地区協議会(若葉小学校区)	会長	藤丸 卓男
衆議院議員	伊藤 達也	いっしょうふれあいネットワーク(第一小学校区)	会長	松澤 和昌
参議院議員	山添 拓	富士見台地区協議会(富士見台小学校区)	会長	武藤 貴子
東京都議会議員	尾崎 大介	ちょうわ地区協議会(調和小学校区)	会長	姫野 由利子
東京都議会議員	中嶋 義雄	布田小地区ハッピータウン協議会(布田小学校区)	会長	依田 耕兒
東京都議会議員	林 明裕	きずな(滝坂小地区協議会)(滝坂小学校区)	会長	鈴木 文夫
天台宗別格本山浮岳山昌楽院深大寺	住職 張堂 興昭	すぎもり地区協議会(杉森小学校区)	会長	中島 俊子
公益社団法人調布市体育協会	会長 林 清一	北ノ台まちづくりネットワーク(北ノ台小学校区)	会長	矢田部 正照
スポーツ推進委員会	会長 清水 良夫	多摩川地区協議会(多摩川小学校区)	会長	佐々木 尚代
NPO法人調和SHC倶楽部	会長 鈴木 るい子	染地小地区協議会	会長	碓石 純夫
公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	理事長 荻本 貞臣	調布青年会議所	理事長	林 慎一郎
調布市文化協会	会長 加藤 弘子	調布市健全育成推進地区代表者連絡協議会	会長	加藤 由希
調布市国際交流協会	理事長 瀧柳 嘉市	東京調布ライオンズクラブ	会長	松村 正澄
調布市観光協会	会長 原島 芳一	国際ソロプチミスト東京-調布	会長	美野 ひろ子
調布市商工会	会長 柳澤 勇	国際ソロプチミスト東京-調布ローレル	会長	斯波 信子
仙川商店街協同組合	理事長 小幡 浩一	東京調布ロータリークラブ	会長	鬼束 浩司
若仙会	会長 小原 武	東京調布むらさきロータリークラブ	会長	渡邊 智
若葉交友会	会長 山口 亮一	社会福祉法人調布市社会福祉協議会	会長	関森 正義
つつじヶ丘商店会	会長 石井 喜元	公益社団法人調布市医師会	会長	西田 伸一
富士見街商店会	会長 佐々木 宏	一般社団法人調布市歯科医師会	会長	乙黒 明彦
上の原商店会	会長 富澤 寿夫	一般社団法人調布市薬剤師会	会長	常谷 紀子
深大寺通り商店会	会長 仲丸 裕子	公益社団法人東京都柔道整復師会武蔵野支部調布地区	会長	藤田 哲郎
柴崎駅北口商店会	会長 森田 純一	調布市福祉作業所等連絡会	代表	大澤 宏章
国領商盛会	会長 相田 英俊	調布市身体障害者福祉協会	会長	江口 正和
深大寺表参道商店会	会長 内野 和彦	調布市視覚障害者福祉協会	会長	愛沢 法子
野ヶ谷中央商店会	会長 富澤 光隆	調布市聴覚障害者協会	会長	井村 茂樹
梅の湯商店会	会長 横山 泰	調布精神障害者家族会かささぎ会	会長	江頭 由香
布田南商店会	会長 竹田 次郎	調布心身障害児・者親の会	理事長	村上 佳子
不動商店会	会長 山本 洋之	調布市民生児童委員協議会	会長	小川 時雄
調布中央商店会	会長 山口 昌之	調布保護司会	会長	宮内 弘
調布百店街	会長 山田 亮平	調布市赤十字奉仕団	委員長	田邊 美春
		調布市老人クラブ連合会	会長	兼子 久

調布市教育委員会	教育長職務代理者	奈尾 力
調布市教育委員会	委員	細川 真彦
調布市教育委員会	委員	福谷 文夫
調布市教育委員会	委員	榎本 竹伸
調布市教育委員会	委員	千田 文子
調布市立小学校長会	会長	濱松 章洋
調布市立中学校長会	会長	佐藤 政彦
調布市公立学校PTA連合会	会長	早坂 寿晃
調布私立幼稚園協会	会長	増田 昭一
調布市保育園協会	会長	小林 弘一
都立神代高等学校	校長	小野寺 真也
都立調布南高等学校	校長	荒井 篤
都立調布北高等学校	校長	上野 勝敏
晃華学園中学校高等学校	校長	西山 恵子
桐朋女子中学校・高等学校	校長	今野 淳一
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	校長	安藏 伸治
電気通信大学	学長	田野 俊一
明治大学	学長	大六野 耕作
桐朋学園大学	学長	梅津 時比古
桐朋学園芸術短期大学	学長	越光 照文
白百合女子大学	学長	高山 貞美
東京外国語大学	学長	林 佳世子
東京慈恵会医科大学	学長	松藤 千弥
ルーテル学院大学	学長	石居 基夫
株式会社ジェイコム東京 調布局	局長	西生 篤
調布エフエム放送株式会社	代表取締役社長	南 孝二
行政経営部長		小柳 栄
行政経営部参事		山内 隆宏
総務部長		今井 隆司
総務部付参事		井部 成人
総務部危機管理担当部長		八田 主税
市民部長		石川 広生
生活文化スポーツ部長		八角 千里
生活文化スポーツ部産業振興担当部長兼オリンピック・パラリンピック担当部長		渡辺 直樹
子ども生活部長		丸田 繁樹
福祉健康部長		野澤 薫
福祉健康部参事		川手 智子
環境部長		岩本 宏樹
都市整備部長		田波 利明
都市整備部参事		代田 敏彦
会計管理者		仁藤 美保
教育部長		小林 達哉
指導室長		所 水奈
選挙管理委員会事務局長		城戸 雅幸
監査事務局長		島貴 隆将
議会事務局長		小島 伸夫

推進本部メンバー

(2021年12月1日現在)

市長	長友 貴樹 (本部長)
副市長	伊藤 栄敏 (副本部長)
副市長	黒岩 幸三 (副本部長)
教育長	大和田 正治 (副本部長)
行政経営部長	小柳 栄
行政経営部参事 (財政担当)	山内 隆宏
総務部長	今井 隆司
危機管理担当部長	八田 主税
市民部長	石川 広生
生活文化スポーツ部長	八角 千里
生活文化スポーツ部産業振興担当部長兼オリンピック・パラリンピック担当部長	渡辺 直樹
子ども生活部長	丸田 繁樹
福祉健康部長	野澤 薫

環境部長
都市整備部長
教育部長
会計管理者

岩本 宏樹
田波 利明
小林 達哉
仁藤 美保

推進会議メンバー

(2021年12月1日現在)

生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当	部長	渡辺 直樹
生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当	次長	徳永 孝正
行政経営部	次長	永井 秀雄
総務部	次長	窪田 秀文
市民部	次長	保田 俊夫
生活文化スポーツ部	次長	深沢 典充
子ども生活部	次長	榎 美佐
福祉健康部	次長	風間 雄二郎
環境部	次長	上野 洋樹
都市整備部	次長	代田 敏彦
教育部	次長	高松 春美

おもてなしプロジェクトチームメンバー

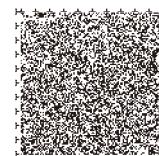
(2019年5月31日現在)

生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当	次長 徳永 孝正 (リーダー)
行政経営部政策企画課政策企画係	主任 是澤 美加
総務部総合防災安全課	課長補佐 中川 昇
市民部市民課第一市民係	主事 阿部 豊
市民部市民課第一戸籍係	主事 中野 綾
生活文化スポーツ部産業振興課商業観光係	主任 小林 幸平
生活文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係	主事 唐渡 健
子ども生活部子ども政策課	主事 萩原 麻子
福祉健康部保険年金課保険税係	主事 依田 明日香
福祉健康部障害福祉課相談係	主事 平野 菜
環境部緑と公園課管理係	技師 河野 由弥
都市整備部街づくり事業課整備係	主任 鈴木 春史
教育部学務課学務係	主事 立石 紗穂

事務局 (生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当)

(2021年9月30日現在)

オリンピック・パラリンピック担当部長	渡辺 直樹
オリンピック・パラリンピック担当次長	徳永 孝正
オリンピック・パラリンピック担当課長	石川 士朗
主幹 (オリンピック・パラリンピック担当)	佐々木 淳 (兼任)
主幹 (オリンピック・パラリンピック担当)	伊東 良之 (兼任)
主幹 (オリンピック・パラリンピック担当)	石坂 知之 (兼任)
副主幹 (オリンピック・パラリンピック担当)	小柳 邦法
オリンピック・パラリンピック担当係長	吉野 秀郷
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	山田 敦子 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	大澤 大樹 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	平野 良弥 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	山田 亜里沙 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	山口 季紗 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	足立 真宏 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	宮島 香織 (兼任)
主査 (オリンピック・パラリンピック担当)	赤塚 房敏 (兼任)
主任	吉野 友喜
主任	武田 英里
主任	内藤 新一
主事	荒川 達弥
主事	野澤 美那



【編集・発行】

調布市生活文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック担当

〒182-8511 東京都調布市小島町2丁目35番地1

TEL:042-481-7111 (代表)

登録番号(刊行物番号) 2021-177

2022年3月発行

